第５章 地域別構想

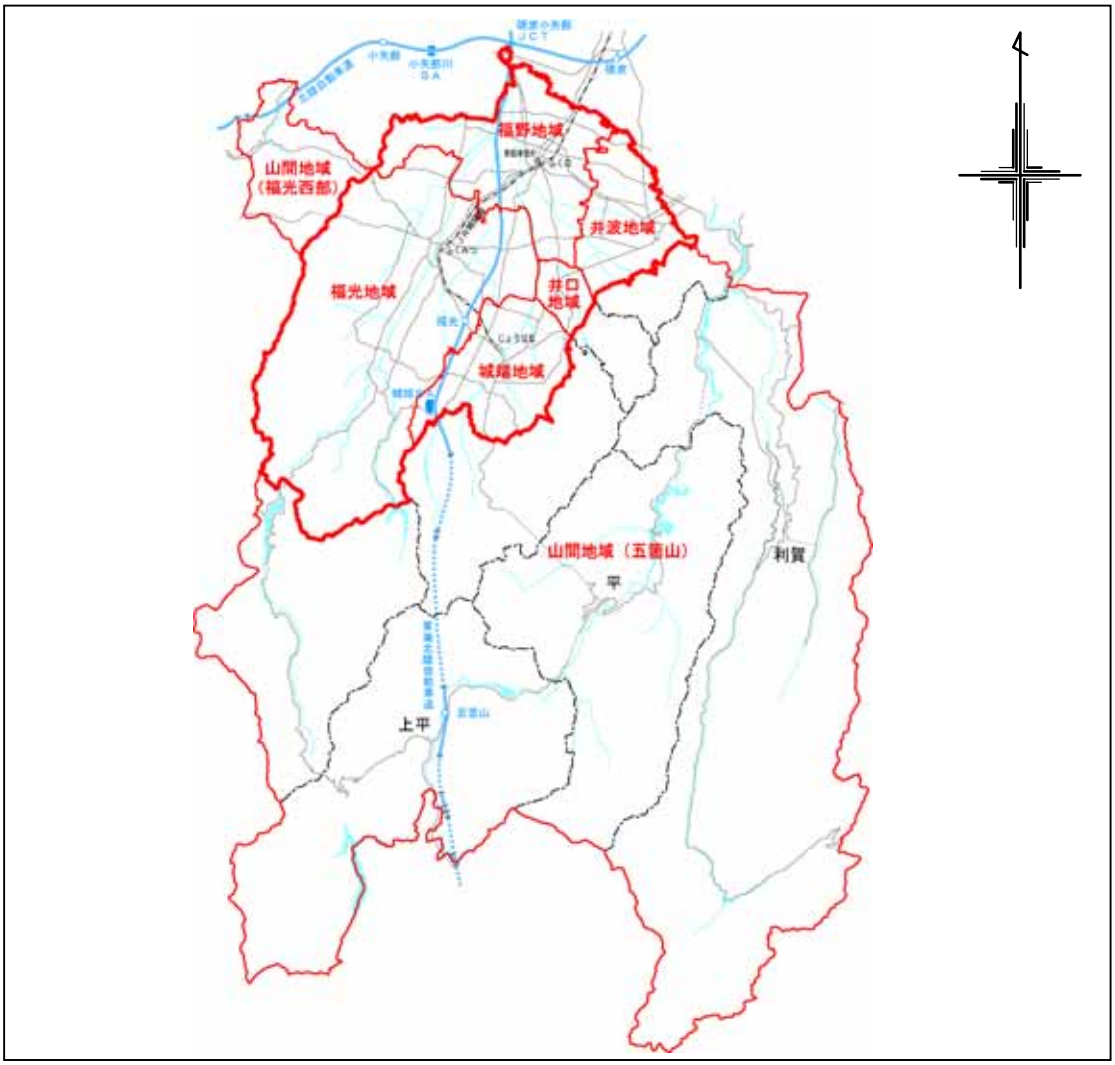
５－１　地域の設定

地域を設定するにあたり、地形などの自然的条件、土地利用の状況、日常生活上の交流範囲等を考慮し、その地域界は旧町村の行政界及び都市計画区域を基本とし、下図のように６つの地域を設定します。

表５－１　地域区分

地域名		面　積	概　要
都市計画区域	城端地域	2,132 ha	城端都市計画区域（城端地域の一部）
	井波地域	1,673 ha	井波都市計画区域（井波地域の一部）
	福野地域	3,171 ha	福野都市計画区域（福野地域の全域）
	福光地域	9,096 ha	福光都市計画区域（福光地域の一部）
	井口地域	約 418 ha	井口地域の平野部
山間地域		約 50,396 ha	城端・井波・福光地域の都市計画区域外 井口地域の山間部、平・上平・利賀地域

図５－１　地域区分図



５－２　城端地域

（１）　地域の現況

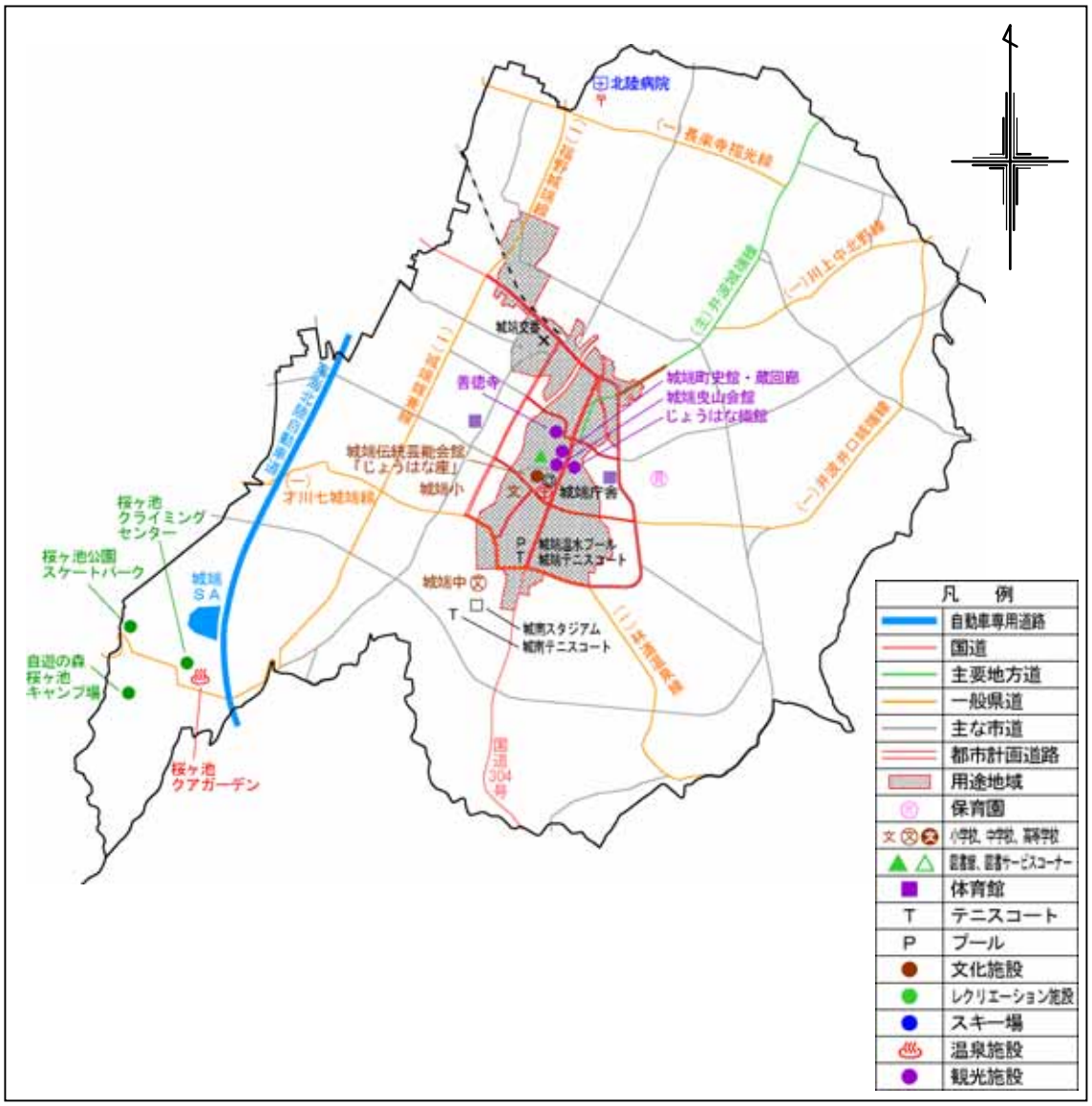
地域の特性

- 市街地は河岸段丘によって形成された地形上に位置しています
- 「城端曳山祭」、「城端むぎや祭」など伝統文化が継承され、市街地には門前町の趣が残されています
- 地域の南西に桜ヶ池公園があり、隣接してハイウェイオアシスがあります
- 市街地には起業家支援施設があり、新しい起業家が育っています（アニメーション制作など）

表５－２　人口、世帯数等

			平成７年	平成12年	平成17年
都市計画区域	面積	ha	2,132		
	人口	人	10,125	9,537	9,125
	世帯数	世帯	2,696	2,704	2,680
	人口密度	人／ha	4.75	4.47	4.28
	一世帯当り人員	人／世帯	3.76	3.53	3.40
用途地域内	面積	ha	149.5		
	人口	人	4,203	3,730	3,292
	世帯数	世帯	1,212	1,154	1,110
	人口密度	人／ha	28.11	24.95	22.02
	一世帯当り人員	人／世帯	3.47	3.23	2.97
用途地域外	面積	ha	1,982.5		
	人口	人	5,922	5,807	5,833
	世帯数	世帯	1,484	1,550	1,570
	人口密度	人／ha	2.99	2.93	2.94
	一世帯当り人員	人／世帯	3.99	3.75	3.72

図５－２　道路及び主要施設



（2） 地域の問題点と課題

	都市の現状	ワークショップ結果		課　　題
土地利用	1・用途地域内には農地がまとまってあり、市街化されていない地区が残っています 2・居住地と混在して地場産業の工場が立地しています 3・市街地は、住宅を主としながらも商業・業務施設が混在しています 4・市街地外は稲作を中心とした良好な農業地となっています	**良い点** A・コンパクトで歩いて散策できる	**問題点** a・飲食店が少なすぎる b・駅前に集い賑わう場所がない c・駅前で遊べない　中心部まで行く途中に見る所がない	●**ＪＲ城端駅前及びその周辺での都市機能の充実**（b，c） ●農地がまとまって残る地区を対象とする**都市基盤整備等による市街化促進**（1） ●新しい都市機能が集積した**商業地の形成**（3，a） ●職住近接型のメリットを活かした**居住環境の形成**（2） ●農村部での**良好な農業地の保全**（4）
都市施設	1・国道304号が整備され、市街地内へのアクセスが向上しています 2・市街地には長期未着手の都市計画道路があります 3・市街地中心部は身近な公園緑地が不足しています 4・桜ヶ池公園に併設してハイウェイオアシスが整備されています	**良い点** A・歩いて回るルートがある B・子供が楽しめる遊具が揃っている C・階段や坂が良い	**問題点** a・街なかに子供が遊べる公園がほしい b・国道304号は整備された反面、交通量多く横断が不便 c・工場へのアクセス道路が狭い d・市営住宅南部団地へのアクセスが悪い e・主要地方道井波城端線は、歩道が狭く通りにくい	●**地域の骨格となる都市計画道路として整備**（2） ●長期未着手道路についての**計画再検討**（2） ●**駐車場の整備と安全な歩行者動線の確保**（1，C，b，e） ●市街地に歩いて行ける**身近な公園広場の整備**（3，a） ●**高速バス利用の検討**（4）
都市景観	1・門前町として栄えたため、歴史的な建物や路地が残っています 2・最近整備された国道304号沿いは、伝統的な街並みとして景観整備がおこなわれています 3・市街地の両側には川が流れ、良好な景観を形成しています 4・農村部は全国的にも珍しい散居村景観が広がっています 5・袴腰山をはじめとする山並みの風景は地域の住民に親しまれています	**良い点** A・市街地から美しい山々が見える B・桜の名所が数多く点在する C・砺波平野の夜景が見える D・蔵が残っている	**問題点** a・道路が広すぎて景観的に良くない b・傾斜地は景観向上のためにも整備が必要である	●古い街並み、路地、蔵など**歴史的な景観としての保全**（1，2，D） ●市街地の河川や境内林を対象とした**うるおいある景観の整備保全**（3，b） ●農村部の散居村風景を**全国的にも珍しい景観として保全**（4） ●袴腰山をはじめとする山並み景観を地域の**自然景観として保全**（5,A,B）
都市環境	1・市街地内は人口減少が著しく、空き地や空き家が目立ちはじめています 2・市街地内は建物が密集し、オープンスペースが不足しています 3・県内でも有数の豪雪地帯となっています	**良い点** A・自然と歴史が調和している	**問題点** a・市街地内には災害地の避難場所が少ない b・両側が傾斜地なので避難経路を整備する必要がある c・冬期間は水不足　消雪装置が錆ている d・国道304号沿いにも空き地や空き家がある	●今後の多様なニーズに対応した**幅広い年齢層が居住できる住宅環境整備**（1） ●密集市街地における**災害に強い都市構造への改善**（2，a，b） ●**冬期間においても安全で快適な交通と生活環境の確保**（3，c）
地域個性	1・市街地には路地や旧街道など門前町の趣が残っているところがあります 2・市街地には伝統芸能を伝える施設があり、観光客が訪れています 3・「城端絹」の機織りが地場産業としてあり、機業場が多く立地しています 4・起業家支援施設があり、新分野の業種が起業しています	**良い点** A・歴史ある建物や寺が残されている B・路地を巡ると発見がある C・昔の街道が残る D・禅宗の寺があり他地域から訪れている E・夜になると三味線の音がする。	**問題点** a・機織り業が厳しい	●市街地内の歴史的建物や趣を活かした**観光地としての整備**（2，A，B，C，D，E） ●観光地としての魅力を高めるべく**路地や旧街道の整備**　（1，B，C，D） ●城端絹の販売促進や新たな技術開発などによる**地場産業の振興**（3，4，a）

※数字やアルファベットは各項目と関連する

（３） 地域の将来像

城端地域には、古くからの伝統的な文化や産業が継承され、住民の誇りとなっている一方、リニューアルされた街並みがあり、新たな企業の進出も見られます。

これまで人口の流出による少子高齢化が進行してきましたが、新たな視点から人口の定着、交流人口の増加を図るべく、まちづくりの目標を次のように設定します。

まちづくりの目標

伝統文化と新たな産業が織りなすまち　城端

～　織物業などの伝統産業と新しい産業、昔の面影が残る路地や旧街道と整備された国道304号など、古き良きものと新しいものが融合した地域の特色を活かして　～

まちづくりの主要方針

≪歴史的な資源を活かしたまちづくり≫

・歴史的な街並み、路地、坂、街道、城端絹など、城端らしい情緒や産業が継承されていることから、これらを地域資源として活用し、交流人口の増加策を進めるとともに、地域産業の活性化を図ります。

・「城端曳山祭」や「城端むぎや祭」が継承され、伝統芸能が地域と密着していることから、城端伝統芸能会館「じょうはな座」を拠点として、文化交流を促進します。

≪地域風土を活かした都市空間の整備≫

・地域の玄関口としてＪＲ城端駅周辺について景観に配慮しながら都市機能の充実を図ります。

・「城端曳山祭」の端唄・庵唄、「城端むぎや祭」の三味線の音などが聞こえる地域風土を活かした居住空間の整備に努めます。

・街なかにあっては、職住近接型の居住スタイルを将来とも維持していきます。

≪国道304号を軸とした交通ネットワークの整備≫

・都市連携軸として機能する国道304号を城端地域の背骨とし、市街地や郊外農村地域の各地と結ぶ機能的な交通網の完成をめざします。

・生活道路は風土の趣を残しながらも、子供からお年寄りまでが安全に行き来できる歩行者空間ネットワークを形成すべく整備に努めます。

≪伝統産業と新たな産業の融合≫

・伝統産業としての織物が盛んですが、新たな分野との融合を図り、ブランド開発など地域産業の活性化を図ります。

（４） 分野別の方針

１） 土地利用

① 商業系

・ＪＲ城端駅前は、地域の玄関口として住宅との共存を図るとともに、商業施設の立地誘導に努めます。
・ＪＲ城端駅と市街地中心部を連絡する国道304号沿いは、地域住民の日常生活を支援する商店等の生活関連施設や飲食施設を立地誘導します。
・善徳寺前周辺は、居住環境の保護を図りながら、観光施設、飲食店、土産物店などが充実するなど、観光客が回遊しながら楽しめる観光ゾーンとして整備を促進します。

回遊しながら楽しめる善徳寺周辺の観光ゾーン
（整備イメージ）

② 住居系

・伝統的な街並みやコミュニティが残る既成市街地にあっては、居住環境の改善を図るとともに、商業・業務施設の用途が混在する低層中密度の町家型住宅地として将来とも位置づけ、建物の高さ制限など街並み景観や住環境の誘導に努めます。
・小学校や中学校が立地する文教ゾーン周辺及び市街地南部の未利用地が多く残る地区は、戸建て住宅を主とする良好な居住環境が整った低層中低密度の住居専用地区として位置づけます。

③ 工業系

・既成市街地のうち、伝統産業である織物の機業場が立地する地区は、職住近接型の複合地区として居住環境との共存を図ります。また、この複合地区の地域性を活かした新たな企業の受入れも検討し、既存産業との融合を図ります。
・市街地北部にある工業地及び福光インターチェンジ周辺の工場適地に、流通業務関連施設や新規企業施設の誘導を図ります。

④ 農村・自然系

・市街地の周辺に広がる農地は農業保全地域とし、無秩序な農地転用による市街化を防ぎ、耕作条件不利地域対策や良好な営農環境を保全します。
・散居村が広がる地区は、住民の協力による「散居景観保全事業」の導入促進を図るほか、景観法など諸制度についても検討し、景観の維持保全に努めます。

２） 市街地整備

・住宅需要に対応するため、市街地南部の都市的未利用地や工場移転があった場合は、都市基盤整備を促進して市街化を進め、良好な居住環境に恵まれた住宅地の形成を図ります。

３）　交通体系

①　道路

（主要幹線道路）

・市内の各地域を連絡する道路を主要幹線道路に位置づけ、周辺地域との連絡強化に努めます。
（国道304号，主要地方道井波城端線，一般県道福野城端線）

（幹線道路）

・市街地の外周に環状線の機能を有する道路を配置し、円滑な交通の処理に努めます。
（都市計画道路駅前線、都市計画道路野口理休線、都市計画道路東線）
・城端サービスエリアにおけるスマートインターチェンジ開設を見越しつつ、長期的視点に立って市街地と連絡する幹線道路の整備に努めます。
・市街地と周辺の農村地域を連絡する道路及び農村地域において骨格となる道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（補助幹線道路）

・市街地内に発生集中する交通を、国道304号や環状線の機能を有する幹線道路に誘導処理する道路として整備します。ただし、長期未着手道路のうち、施工費が嵩み費用対効果の低い道路は、計画の見直しを行います。
・農村地域に位置づけられた幹線道路を補完する道路として配置整備し、円滑な交通の処理に努めます。

（その他）

・通学や買い物そして散歩など子どもやお年寄りが、日常生活の中で安全に快適に移動できるように、歩行者空間の整備に努めます。

②　公共交通

・ＪＲ城端線は、公共交通軸として利便性の向上を促進し利用者の増加を図ります。
・ＪＲ城端駅は、交通結節点として位置づけ、パーク＆ライド用駐車場の整備やバスの乗り入れなど乗継機能の強化を促し、高齢化社会に対応した車を使わなくても生活に支障をきたさない利便性の高い地域づくりに努めます。
・市街地等への人の流れを誘導するため、城端サービスエリア内にある高速バスの停留所やハイウェイオアシスの駐車場を活用し、城端市街地またはＪＲ城端駅などの主要施設を連絡するシャトルバスの運行などを検討します。

４）　公園・緑地

・城南中央公園や城南スタジアム、城南テニスコートの利用増進を図るため、整備充実に努めます。
・桜ヶ池公園は、総合型の公園として位置づけ、市民のみならず城端サービスエリアのハイウェイオアシスを活用した広域圏域の利用者を見込み、施設充実に努めます。
・市街地に散在する神社仏閣については、境内の緑地・オープンスペースの保全を促します。

5）　その他の都市施設

① 河川

・市街地を挟むように流れる山田川と池川をはじめとする諸河川については、近年の豪雨にも対処できるよう治水機能の向上を図るため、河川改修に努めます。

② 駐車場

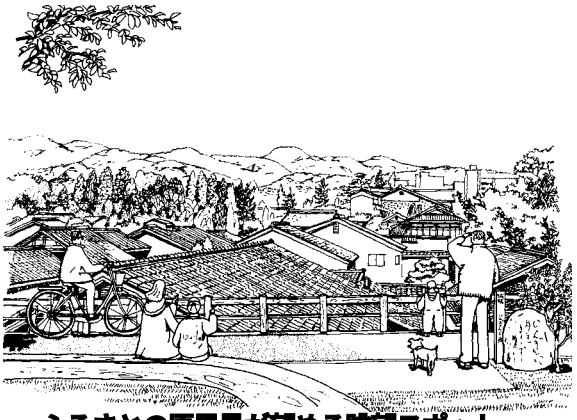
・市街地を訪れる観光客のため、駐車場の整備充実を進めるとともに、既存駐車場から市街地へのアクセス改善に努めます。
・城端サービスエリアに隣接して農産物直販施設が計画されており、その施設周辺に需要を満たす駐車場の確保を検討します。

③ 自転車駐車場

・ＪＲ城端線の利用増進を図るため、ＪＲ城端駅前自転車駐車場の整備充実について検討します。

6）　都市景観

・新しく整備された国道304号沿いの街並みは、建物の意匠に配慮されています。今後も善徳寺周辺は門前町として栄えた歴史的な街並み景観が残る地区として、現存する伝統家屋の保全継承と新規建築物が街並みと調和するよう景観誘導に努めます。
・地域住民に親しまれている袴腰山をはじめとする山並みの景観は、ふるさとの原風景となる地域の宝であり、市街地からの眺望が確保できるようまちづくりに配慮します。



ふるさとの原風景が望める眺望スポット
（整備イメージ）

7）　都市環境

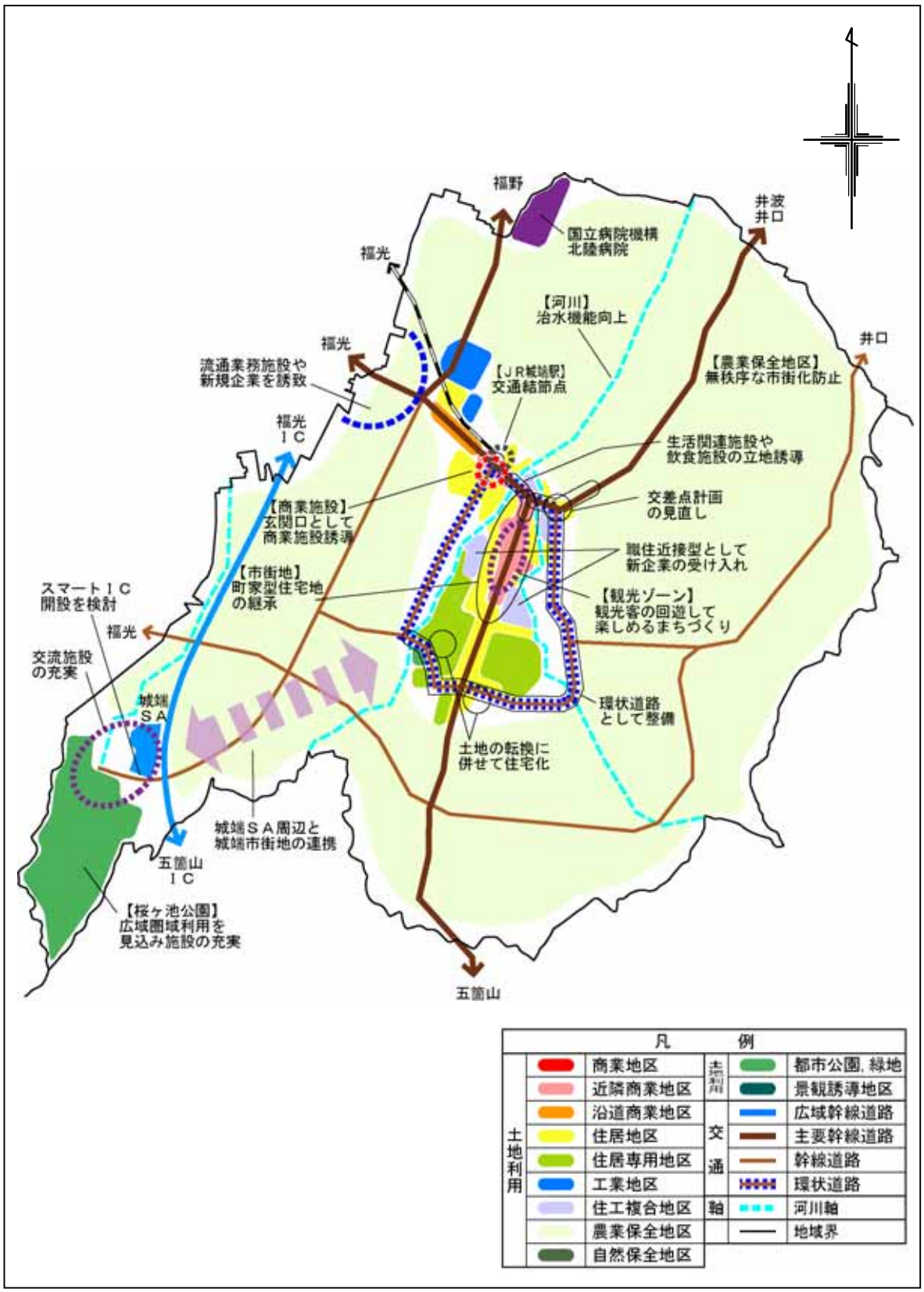
① 防災

・地形が急峻で河岸段丘を形成した比較的弱い地質であるという地域特性を考慮し、河川の治水機能の向上や砂防・急傾斜地・地すべり対策などを進め、災害に強い安全で安心できる環境の形成に努めます。

② 観光資源

・市街地内の路地、坂、句碑など城端らしさのある趣を活用し、観光客が楽しみながら回遊できる魅力ある空間づくりに努めます。
・城端サービスエリア及びハイウェイオアシスは、スマートインターチェンジの開設も視野に入れ広域観光の拠点として、本市内の観光ＰＲや各観光地と連携を図ります。

図５－３　まちづくり方針図（城端地域）



５－３　井波地域

（１）　地域の現況

地域の特性

・瑞泉寺をはじめ多くの寺院があり、門前町として発展してきました

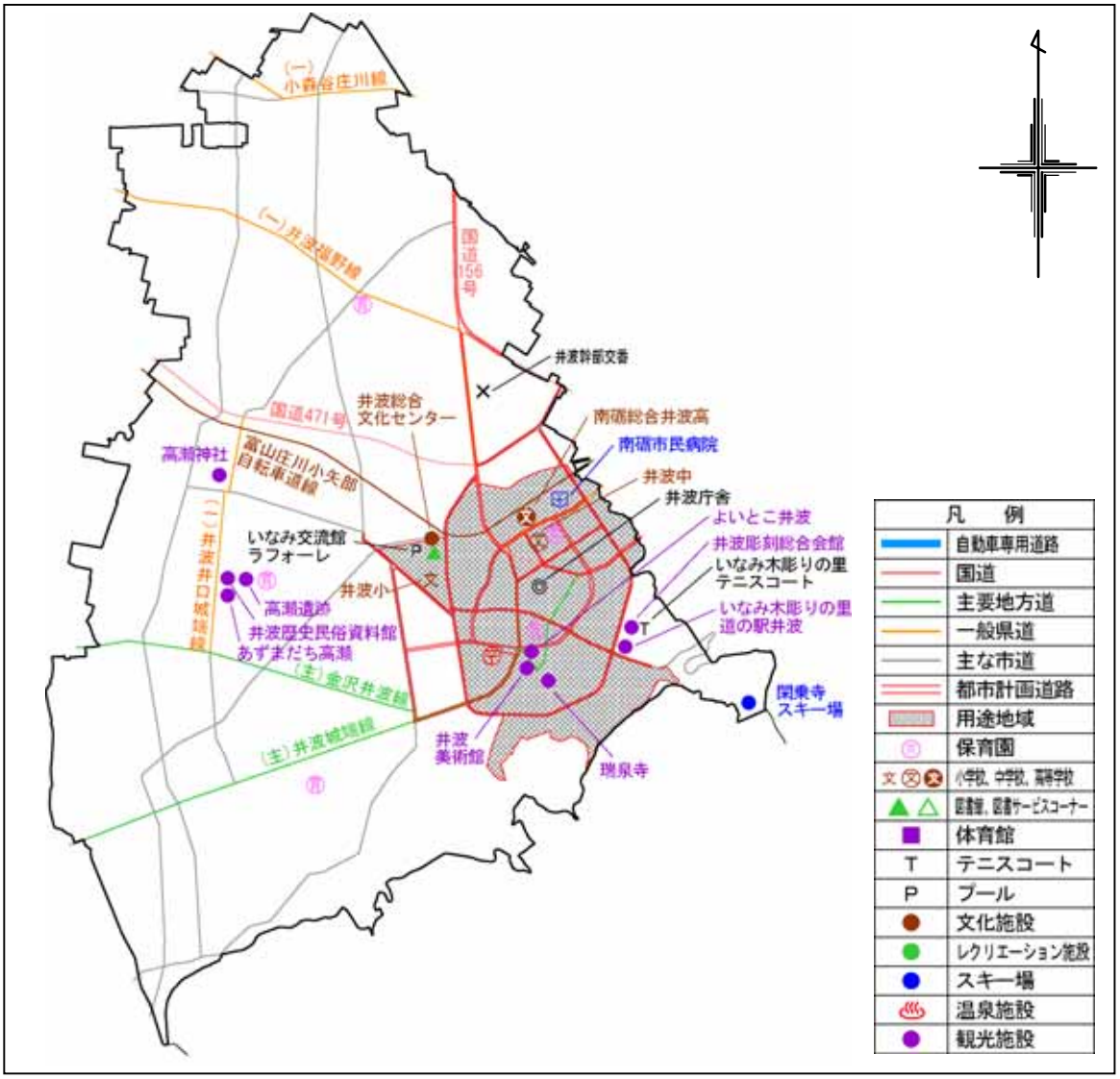
・彫刻工芸を主とする木彫りの里として、多くの観光客が訪れています

・南砺市民病院があり、医療の拠点として位置づけられています

表５－３　人口、世帯数等

			平成７年	平成12年	平成17年
都市計画区域	面積	ha	1,673		
	人口	人	10,929	10,373	9,895
	世帯数	世帯	2,899	2,890	2,874
	人口密度	人／ha	6.53	6.20	5.91
	一世帯当り人員	人／世帯	3.77	3.59	3.44
用途地域内	面積	ha	200.9		
	人口	人	5,851	5,540	5,064
	世帯数	世帯	1,713	1,669	1,593
	人口密度	人／ha	29.12	27.58	25.21
	一世帯当り人員	人／世帯	3.42	3.32	3.18
用途地域外	面積	ha	1,472.1		
	人口	人	5,078	4,833	4,831
	世帯数	世帯	1,186	1,221	1,281
	人口密度	人／ha	3.45	3.28	3.28
	一世帯当り人員	人／世帯	4.28	3.96	3.77

図５－４　道路及び主要施設



（2） 地域の問題点と課題

	都市の現状	ワークショップ結果		課　　題
土地利用	1・用途地域内にはまとまって農地が残っている地区があります 2・商店街を形成していますが、活気が見られません 3・市街地北部には、大規模な工場が立地しています		**問題点** a・駅は拠点として必要なもの b・観光客の食事する店少ない c・企業や店舗の進出が少ない d・地元の人が井波を楽しんでいない	●宅地需要に対する**用途地域内への誘導**（1） ●**生活関連サービスを提供する商業地の形成**（2，b，c） ●**地域の拠点となり賑わう場所の確保**（a，d） ●周辺環境と調和した**工業地区の形成**（3）
都市施設	1・都市計画道路は一部未整備区間が残っています 2・市街地内には道路の狭い地区がみられます 3・市街地住民が、歩いていける身近な公園緑地が少ない状況です 4・かつての鉄道敷は自転車道として活用され、旧駅は物産展示館として残されています 5・八日町通りは観光客など歩行者が多くみられますが、車の通行規制はされていません 6・交通広場は観光客が多く訪れた時に混雑しています	**良い点** A・スーパー農道の整備により市街地の通過交通が少なくなった B・小学校と図書館が近いのは良い C・街路整備により市街地内へ行きやすくなった D・主要道路は幅員広く消雪も完備	**問題点** a・鉄道に変わる公共交通が必要 b・自転車道路の有効活用 c・スポーツ公園がない d・大門川公園は整備されて良いが手入れが不十分 e・路地が整備されていない f・環状１号線は歩道が狭く段差がある	●瑞泉寺周辺での**車と歩行者の動線を検討した一体的整備の推進**（5） ●観光需要に対応した**駐車場・自転車駐車場の整備**（6） ●地域内外に発生する交通を**円滑に処理できる幹線道路の整備**（1，2，A，C，D） ●市街地内において**身近な公園緑地の整備や既存施設の整備充実**（3，c,d） ●高齢者にとっても**利用しやすい公共交通の確保**（a）
都市景観	1・瑞泉寺周辺は門前町としての景観が残っています 2・閑乗寺公園からは散居村景観が見渡すことができます 3・大門川には桜並木が植えられ、景観を形成しています	**良い点** A・裏路地など地域の風情があって良い B・瑞泉寺があり良い風情 C・閑乗寺から見た散居村景観 D・大門川沿いの桜は、大きくなり良くなった	**問題点**	●**門前町の街並みが残る良好な景観の保全**（1，A，B） ●散居村を見渡せる**良好な眺望点の保全**（2，C） ●市街地の河川など**うるおいある景観の保全整備**（3，D）
都市環境	1・市街地には木造建物が密集し、災害の危険性が高い地区がみられます 2・地域外から井波への連絡する誘導標識が充分ではありません 3・医療拠点としての南砺市民病院が立地しています	**良い点** A・消火栓が市街地に整備されて安全 B・交通広場は白線表示により安全になった トイレもきれいになった	**問題点** a・変則交差点で危険 b・岩屋交差点からのアクセス分りにくい c・福光ＩＣから井波への看板がない	●**医療・福祉施設の一層の充実**（3） ●**火災等の災害の危険性が少ない市街地の整備**（1，A） ●**地域外からの交通を円滑に誘導する標識の整備**（2，b，c） ●**交通安全の啓発や施設の整備**（a）
地域個性	1・市街地には木彫刻家が多く住んでおり、木彫りの音が聞こえています 2・市街地には瑞泉寺など神社、仏閣が多く立地しています 3・観光施設は点在しており、回遊性が必ずしも充分ではありません	**良い点** A・彫刻家が多い町(日本で一番多い) B・八日町通りの石畳が良い	**問題点** a・八日町通りを歩行者専用に b・観光施設が離れすぎ	●木彫りの音など**井波らしい環境の保全・継承**（1，A，B） ●地域資源を活かした**観光地としての魅力の向上**（2，3，a，b）

※数字やアルファベットは各項目と関連する

（３） 地域の将来像

井波地域は、瑞泉寺の門前町として、また木彫りの里としての個性がまちのイメージを形成し、住民もこれを誇りとしています。また、まちづくりに対する住民の協働意識も高く、医療、福祉などの行き届いた安心して暮らせる自分たちのまちとして、将来の目標を次のように設定します。

まちづくりの目標

街なみに工芸と暮らしが息づくまち　井波

～　瑞泉寺を中心とした歴史的な街並みが残る門前町に、彫刻工芸が伝統文化として継承され活気づき、また地域の良さを感じて定住が促進されるまちをめざして　～

まちづくりの主要方針

≪瑞泉寺門前町の誘客促進≫

・八日町通りを中心とする地区から木彫りの里に至るまでの地区を、井波彫刻や門前町の街並みを活かした回遊性の高い長時間滞在できる観光地として、誘客機能の充実や歩行ネットワークの整備充実を図ります。

≪伝統が息づく居住のまちづくり≫

・伝統が息づく街並みのなかに、子供からお年寄りまでが一体となる地域コミュニティが残ることから、こうした良さを活かし、都市生活者の転入先として積極的な受け入れ策を検討します。

≪ニーズに対応した魅力ある市街地の創出≫

・市街地中心部は、物販とともに住民のサービスやコミュニティを高める施設の整備充実に努め、生活のニーズに対応した市街地の形成を図ります。

≪機能的な交通体系の整備≫

・本市の歴史文化拠点として近隣観光地と広域観光ネットワークを設定するにあたり、交通拠点からのアクセス性の向上を図ります。

・市街地内で、快適な都市生活環境を実現するため道路網整備及び交通動線について検討します。

≪医療・福祉サービスの充実≫

・南砺市民病院を本市の医療拠点として、医療と福祉の連携を進めながら施設やサービスの充実に努め、高齢化社会に対応した安心して暮らせるまちづくりを図ります。

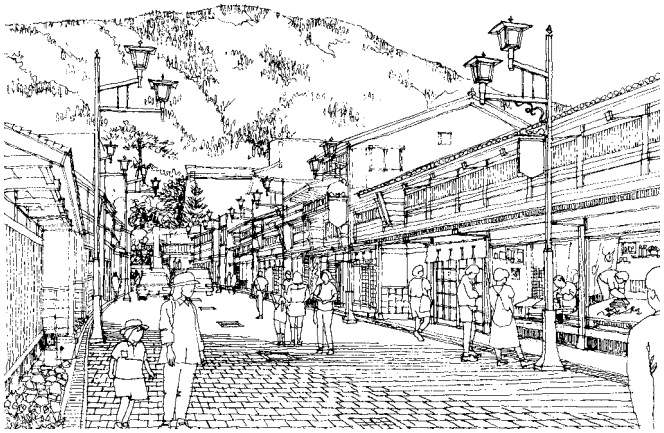
（４） 分野別の方針

１） 土地利用

① 商業系

・市街地の中心部にあって生活に密着した商業施設が建ち並ぶ本町通りや、ショッピングセンターが立地する地区周辺は、ほとんどが住居と併用または隣接している地区であり、将来も住宅と商業施設が共存する地区として位置づけます。

・八日町通り及びその周辺の地区は、住環境を維持するとともに木彫刻を主とする観光ゾーンとして、彫刻店の他、飲食店、土産物店などとの共存に努めます。



市民の暮らしと観光施設が共存する八日町通り
（整備イメージ）

② 住居系

・古くから街並みを形成してきた市街地中心部は、地域の伝統を維持継承するとともに、商業施設を備えた住商複合の低層中密度住宅地として、歩いて暮らせる快適な居住地の整備に努めます。

・住宅が密集する既成市街地は、近年のライフスタイルを踏まえた土地利用を進めるため、居住環境に配慮しながら低層中密度住宅地としての利用を図ります。

・環状線内の山見地区や今町地区は、低層中低密度の住居専用地区として位置づけ、良好な住環境の形成に努めます。

・南砺市民病院周辺の地区は、高齢者向けの共同住宅などの立地を考慮した低層中密度住宅地としての利用を図ります。

・市街地南部丘陵地は、門前町の趣を保全する風致規制に対応した都市計画の制限を行うこととします。

③ 工業系

・市街地北部の大規模な工場が立地する地区及びその周辺については、従来通り工業地区として位置づけ、周辺地域の環境保全にも配慮した土地利用を進めます。

④ 農村・自然系

・市街地の北側から西側にかけて広がる農地は農業保全地域とし、無秩序な農地転用による市街化を防ぎ、良好な営農環境を保全するとともに、「散居景観保全事業」や諸制度の導入について検討し、散居景観の維持保全にも努めます。

２） 市街地整備

・建物が密集する既成市街地で、都市計画道路の整備により住環境を改善する地区は、建物の更新にあわせて地区計画などの導入を検討するなど、住環境の向上に努めます。

３）　交通体系

①　道路

（主要幹線道路）

・市内の各地域及び砺波市と連絡する道路を主要幹線道路として位置づけ、周辺地域との連絡強化に努めるとともに、福光インターチェンジや砺波インターチェンジまたは南砺インターチェンジ(仮称)からのアクセスの向上を図り、広域的な観光客の誘客や交流の促進に努めます。
（国道156号，国道471号，主要地方道井波城端線，主要地方道金沢井波線）

・八乙女連絡道は、整備構想を具体化し早期着工をめざします。

（幹線道路）

・市街地の外周に環状線の機能を有する道路として配置し、円滑な交通の処理に努めます。
（都市計画道路１号環状線）

・市街地の軸となる都市計画道路駅前八日町線を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

・農村地域の骨格となる道路を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（補助幹線道路）

・市街地に発生集中する交通を、都市軸や環状線として機能する幹線道路に誘導処理する道路として整備します。ただし、長期未着手道路のうち、施工費が嵩み費用対効果の低い道路は、計画の見直しを行います。

・農村地域に位置づけられた幹線道路を補完する道路として配置整備し、円滑な交通の処理に努めます。

（その他）

・多くの観光客が訪れる八日町通り周辺地区は、車両通行規制等を含めた回遊性のある歩行者ネットワークの整備を行い、寺院や木彫刻店をゆっくりと見て楽しめるゾーンの形成に努めます。

②　公共交通

・ＪＲ福野駅や各地域の拠点と連絡する主要路線及び通勤や通学そして病院への通院に利用できるバス路線の導入を促進し、車を使わなくても便利に暮らせる地域づくりに努めます。

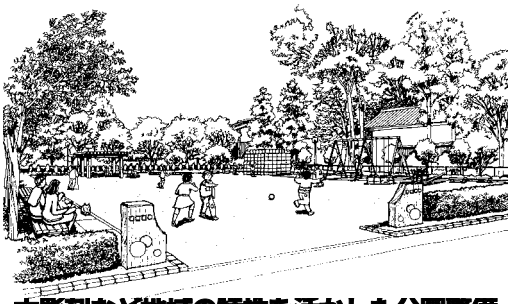
・鉄道のない井波地域に、公共交通の不便さを感じさせないよう周辺の地域等と連絡する公共交通機関の充実に努めます。

４）　公園・緑地

・閑乗寺公園は総合型の公園としてスポーツレクリエーション施設の充実に努めます。

・市街地は既存公園緑地について施設の充実に努めるとともに、住宅団地等の開発とあわせて街区公園を整備するなど、ニーズにあった公園の整備に努めます。

・市街地にある神社仏閣は、境内の豊かな緑を地区の財産として保全するよう促します。



木彫刻など地域の特性を活かした公園整備
（整備イメージ）

5）　その他の都市施設

① 河川

・地域を流れる諸河川は、計画的な河川改修により治水機能の向上に努めます。

② 駐車場

・市街地を訪れる観光客の駐車場として交通広場が整備されていますが、今後さらに増加が見込まれる観光客の需要やニーズ、動線に配慮した駐車場の整備充実について検討します。

6）　都市景観

・現在八日町通りと上新町通りで行われている「景観づくり住民協定」を周辺地区にも拡大し、瑞泉寺門前町としての一体的な雰囲気づくりに努めます。
・街並みの景観づくりには、道路整備に合わせ無電柱化も含めて検討します。
・市民の原風景となっている八乙女山は、市街地から見える借景として保全するとともに、新緑や紅葉が楽しめる広葉樹を増やすように努めます。
・閑乗寺公園は、散居村風景を見渡すことのできる眺望点として、整備保全に努めます。
・大門川堤防沿いの桜の保全と育成を進め、うるおいある良好な景観の継承に努めます。

7）　都市環境

① 防災

・市街地では、オープンスペースの確保などにより建物密集地を改善し、火災などの災害に強い都市構造の形成を図ります。

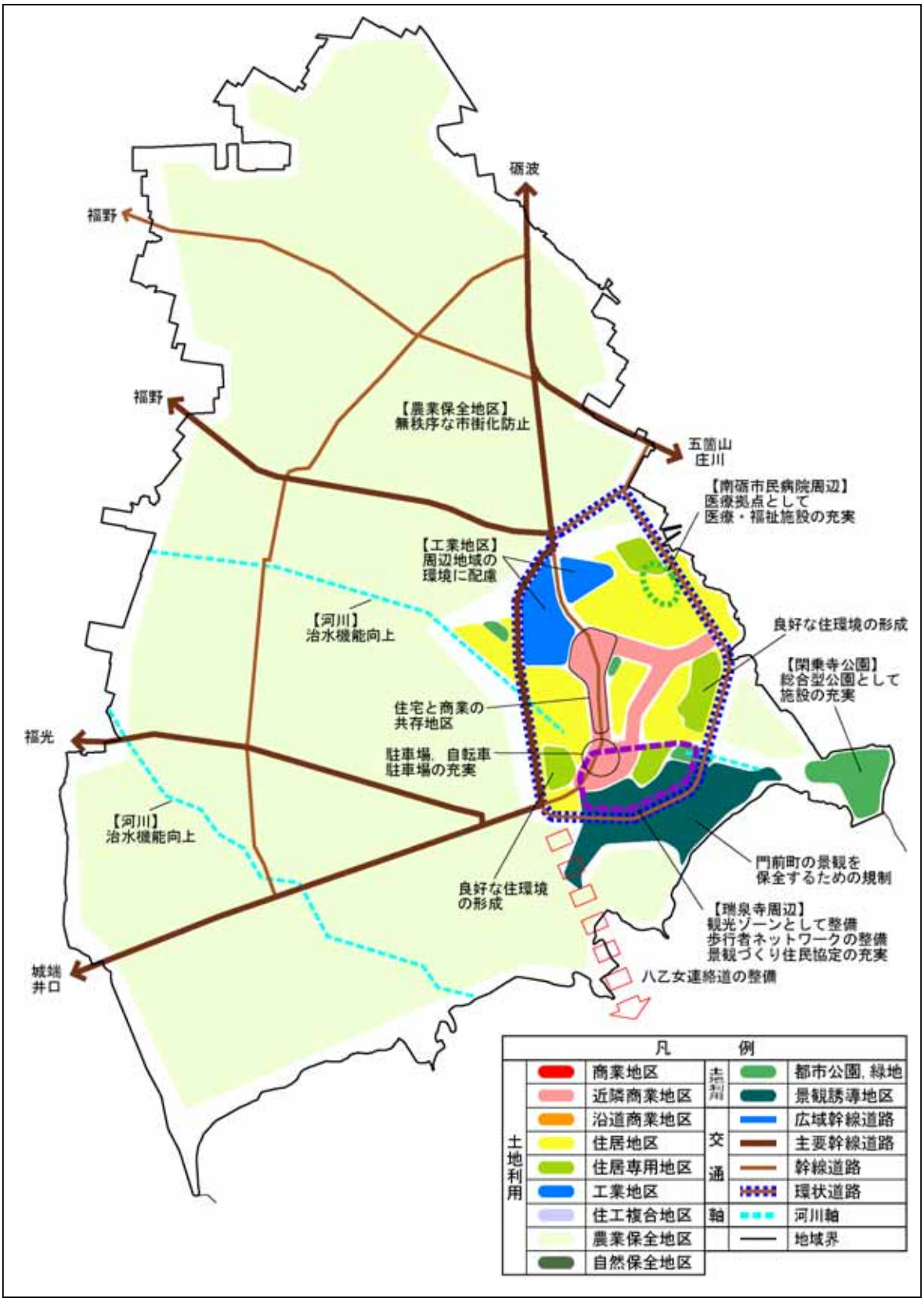
② 医療・福祉サービス

・南砺市民病院は、福光地域に立地する公立南砺中央病院と並んで南砺市の医療拠点として位置づけられており、多くの市民が利用しています。また、隣接して福祉サービス施設も整備されており、今後こうした施設の利用者が増加することが見込まれる中で、中心施設として医療・福祉施設の充実に努めるとともに、アクセス性の向上を図るための道路整備、バスなどの公共交通の充実や来訪者のための駐車場整備に努めます。

③ 観光資源

・瑞泉寺周辺から木彫りの里に至るまでの地区は、観光ゾーンとし路地の整備による回遊性の向上や、観光スポット、飲食サービスの整備充実を施すとともに、自動車の通行規制を行うなど、長時間滞在できる魅力ある観光地の整備に努めます。

図５－５　まちづくり方針図（井波地域）



５ － ４　福野地域

（１）　地域の現況

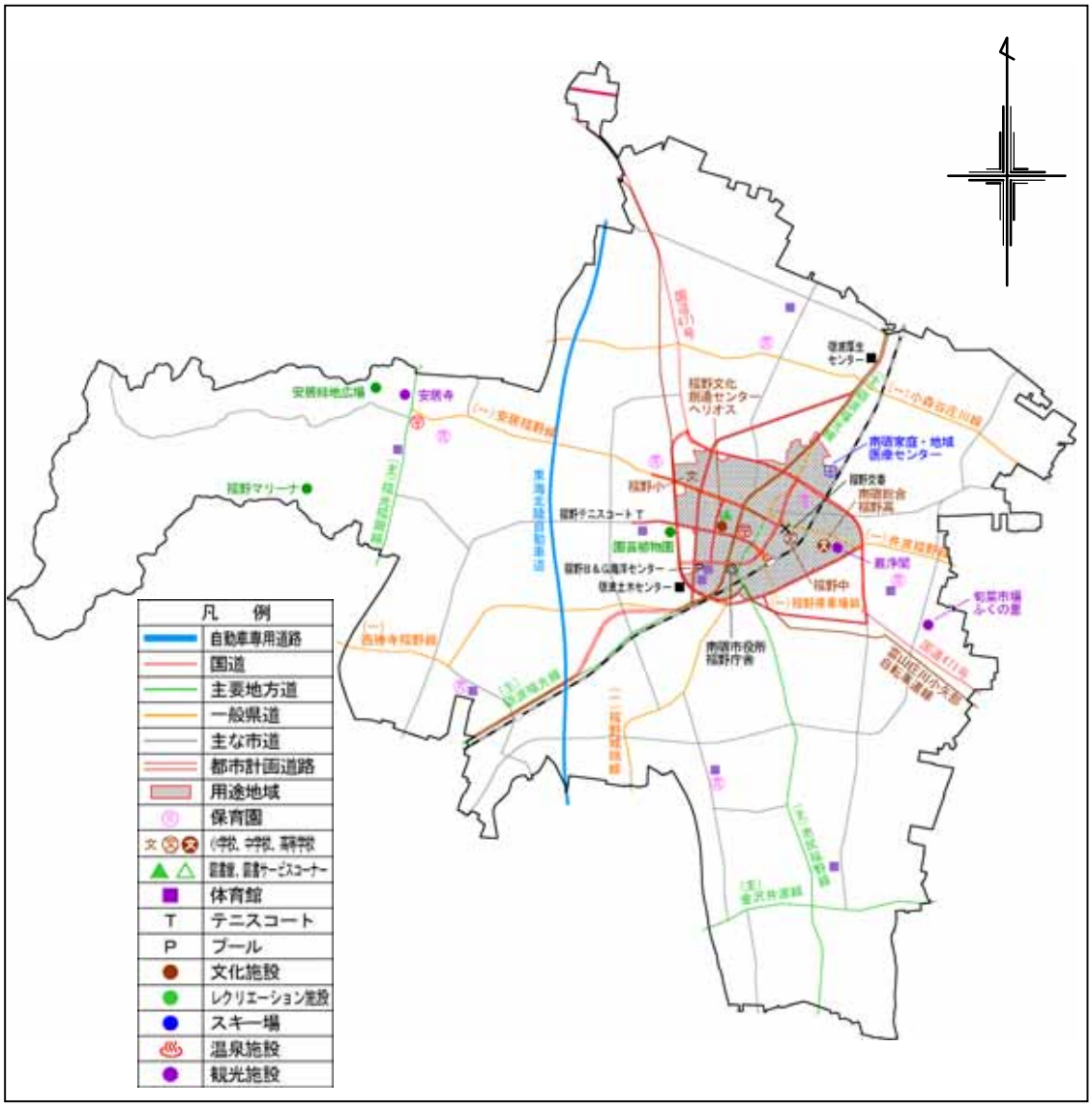
地域の特性

- 古くから交通の要衝として市（いち）が立ち、現在も商業地として集客しています
- 大規模な工場の立地が見られます
- 鉄道により地域が分断されています
- 音楽や特産物を活かしたイベントが多く開催されています

表５－４　人口、世帯数等

			平成７年	平成12年	平成17年
都市計画区域	面積	ha	3,171		
	人口	人	15,044	14,682	14,594
	世帯数	世帯	3,892	3,979	4,219
	人口密度	人／ha	4.74	4.63	4.60
	一世帯当り人員	人／世帯	3.87	3.69	3.46
用途地域内	面積	ha	167.6		
	人口	人	4,466	4,125	3,928
	世帯数	世帯	1,302	1,303	1,315
	人口密度	人／ha	26.65	24.61	23.44
	一世帯当り人員	人／世帯	3.43	3.17	2.99
用途地域外	面積	ha	3,003.4		
	人口	人	10,578	10,557	10,666
	世帯数	世帯	2,590	2,676	2,904
	人口密度	人／ha	3.52	3.52	3.55
	一世帯当り人員	人／世帯	4.08	3.95	3.67

図５－６　道路及び主要施設



（2） 地域の問題点と課題

	都市の現状	ワークショップ結果		課　　題
土地利用	1・用途地域内において農地がまとまって残っている地区があります 2・市街地の商店街は人通りが少なくなってきています 3・集客力の高いショッピングセンターが立地しています 4・駅前は飲食店や高齢者向け住宅が整備され、活力が生まれてきています。 5・郊外の農業地に住宅団地や大規模な工場が多く進出してきています	**良い点** A・商業施設が遅くまで営業していて便利 B・図書館が夜遅くまで開いていて便利 C・区画整理で計画的に整備されている D・銀行が集まって便利 E・駅前が明るくなった F・駅前の飲食店を利用することが多くなった	**問題点** a・商業施設が早い時間から開店出来ないか b・市街地が寂しく統一性がない c・旧ピステ・ゴルフ場は未利用地となっている d・ギャラリーがあるが、点々としているため回遊性が少ない	●**魅力ある商業地の形成**（2，3，a，d） ●**住環境良好な市街地の整備**（1，C） ●**若年層が魅力を感じる住宅や都市サービスの提供**（4，A，B，D，E，F，c） ●市街地周辺の農村部における**良好な農業地の保全**（5）
都市施設	1・鉄道を立体交差する道路は１路線しかなく、踏切は幅員が狭くなっています 2・市街地内の道路は、車と歩行者が交錯し、危険なところがあります 3・市街地中心部は駐車場が少なく、路上駐車が多くみられます 4・市街地西側に新規ＩＣの整備が予定されています	**良い点** A・植物公園前に歩道が整備されている B・スポーツ施設間の距離が近い	**問題点** a・児童センターへのアクセス道路が狭い b・小学校近くの歩道整備が不十分 c・室内運動施設がない d・歩道が凸凹で歩きにくい e・城端線の平面踏切の改善が必要（２ヶ所） f・ＪＲによって東西が分断されている g・都市計画道路が未整備のまま h・道が狭くて危ない（高校生の通学路）	●市街地を円滑に連絡する**幹線道路の整備**（1，e，f，g） ●道路が狭い地区における**生活道路の整備**（2，a，h） ●市街地内など特に歩行者の多いところは、**歩きやすい安全な歩道の整備**（A，b，d） ●市街地内へのアクセス性の向上を図るべく**駐車場の整備**（3） ●東海北陸自動車道を活かすべく**市街地へのアクセス向上**（4）
都市景観	1・福野駅前にはシンボルモニュメントが設置されています 2・市街地は街路樹が多く、うるおいある景観となっています 3・散居村景観が広がる地区に、住宅団地や工場が立地するところがみられます 4・地域西側に位置する安居緑地広場からは平野部一体が見渡せる眺望点があります	**良い点** A・駅前の景観整備が良い B・砺波福光線沿いのハナミズキが良い C・横町通りに花が飾ってあるのがすてき D・猿ヶ辻公園のしだれ桜がきれい E・駅前通りの街路樹の紅葉が良い	**問題点** a・街路樹で看板が見えにくい	●地域の**玄関口にふさわしい景観整備**（1，A） ●**適切な花木の維持管理**（2,B,C,D,E,a） ●農村部に広がる**散居村風景の保全**（3） ●散居村風景が見ることのできる**眺望点の整備充実**（4）
都市環境	1・市街地内は道路が狭く住宅が密集しています 2・市街地に木造住宅が密集し火災などの災害に脆弱な地区がみられます		**問題点** a・交差点の見通し悪く、危ない b・信号が多く車の流れが悪い c・郵便局の出入りが非常に危険 d・道路の見通しが悪く狭い	●密集住宅地区における**良好な住環境整備の推進**（1） ●災害に脆弱な地区における**安全で安心な住環境の確保**（2） ●**交通安全施設の整備**（a，b，c，d）
地域個性	1・園芸植物園は、「南砺菊まつり」の開催時になると多くの方々が訪れています 2・福野文化創造センターヘリオスは、地域の人びとに親しまれています		**問題点** a・朝市は朝６時で終わってしまう。もっと活気のあるものに b・植物園の駐車スペースが狭い	●市民の交流拠点となる**都市施設の整備充実**（1，2，a，b）

※数字やアルファベットは各項目と関連する

（３） 地域の将来像

福野地域は、商業施設や企業が集積し、地域内や市内外から多くの人が訪れ、賑わいが感じられます。

また、農業教育の歴史や園芸技術などをまちの資源とした祭りや音楽のイベント、市(いち)を通して多くの人が集まることから、その受け皿となる都市機能の整備を図るため、まちづくりとしての目標を次のように設定します。

まちづくりの目標

商工と農芸に人が集い賑わうまち　福野

～　商業と工業の充実により買物や通勤で人びとが集まり、また地域風土を活かした「里いも」などの農業や「菊」などの園芸を通して人びとが集うまちとして　～

まちづくりの主要方針

≪商業・工業の活力あるまち≫

・ショッピングセンターを中心に地域内外から多くの買物客が訪れていることから、中心部においても一層の商業機能の充実により、地域商業全体の活性化を図ります。

・大規模な工場が多く立地する「工業のまち」という特性を活かし、東海北陸自動車道の新規インターチェンジの設置により交通の利便性を高め、企業誘致を積極的に進めます。

≪ゆとりある居住環境の提供≫

・駅周辺の市街地は、交通をはじめ都市機能が充実する利便性の高い場所であり、ここに良好な居住環境の整備を進め、あわせて公共交通の利用増を図ります。

・住宅が密集する市街地内は、空き地や空き家の有効活用を図るなど良好な居住環境の整備を進める一方、未利用地については面的整備によりゆとりある住宅地の提供を図ります。

≪連携強化を図る道路整備≫

・周辺地域から福野地域へのアクセス性を高めて連携強化を図るとともに、市街地での環状道路や鉄道駅へのアクセス道路など道路網の見直しも含め整備に努めます。

≪安心して暮らせる都市空間の形成≫

・子供からお年寄りまでが、安心して移動できる歩行空間の確保及び公共交通の充実に努めます。また街路樹の整備など快適な都市空間を演出する景観形成に努めます。

≪祭りやイベントにより交流促進≫

・「福野夜高祭」や「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド」などは、多くの住民が行事に参加することによって地域コミュニティが高まり、地域外の方との市民交流にもなっています。これら祭りやイベントを市街地中心部の活性化に活用して賑わいの創出を図ります。

（４）　分野別の方針

１）　土地利用

① 商業系

・ＪＲ福野駅前周辺は、地理的条件を活かし、鉄道利用客や周辺住民を対象とする物販や飲食などの商業施設と、居住環境の保全された住宅が共存できる商業地区として位置づけ、市街地の活性化に努めます。

・市街地中心部は、物販や飲食を対象とした商業施設や銀行等の業務施設、さらには娯楽施設も集積する商業地を形成してきました。今後は、地域特産物の販売やイベント開催等により広域的な客の誘致も図る商業地とする一方で、集客力のあるショッピングセンターとの情報共有等の連携を図りながら、地域全体の商業力を高め、人が集う魅力的な商業地区の形成に努めます。

・都市計画道路寺家高儀線沿いは、南砺市民の自動車利用による集客があるショッピングセンターや飲食店、事務所などが立地しています。この幹線道路沿いは、背後に形成する住居や農村地域の環境保護機能を持ちながら、集客性の高い沿道型商業地区の形成に努めます。

② 住居系

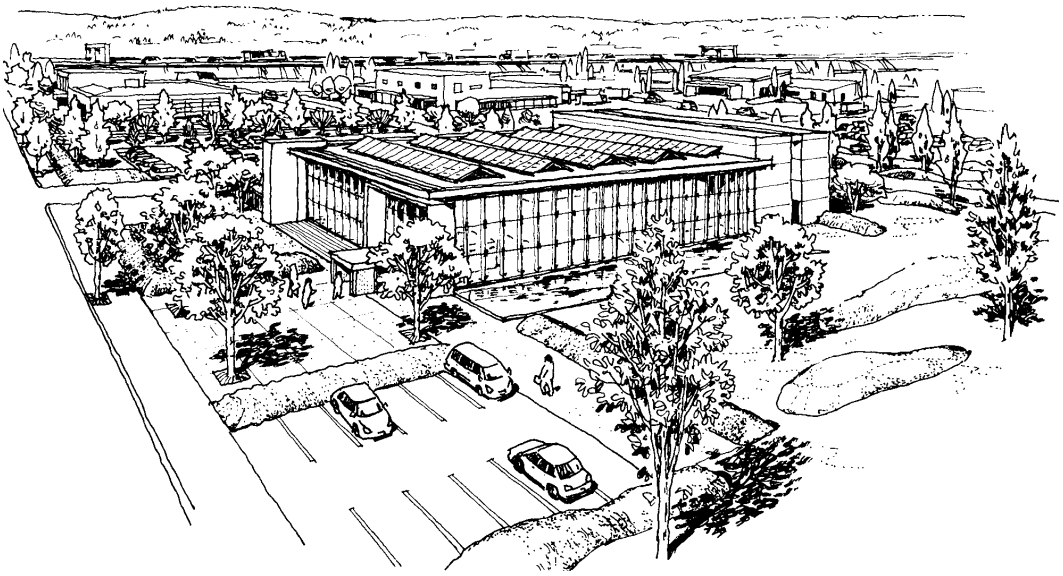
・ＪＲ福野駅東側から市街地周辺に残る未利用地は、良好な居住環境を持つ低層中低密度住宅地として位置づけます。その結果として市街地内での定住人口を増やし、ＪＲ城端線の利用増に繋げていくこととします。

・市街地中心部の住宅が密集する地区は、中低層中密度住宅地として居住環境の改善を図りながら人口の定着化を進め、コミュニティの維持に努めることで良好な住環境を備えた住宅地とします。

③ 工業系

・市街地北部の工場が立地する箇所は工業地として位置づけ、職住近接型の市街地環境とします。

・市街地の西側に南砺インターチェンジ（仮称）を整備し、ここからアクセスが良く周辺環境に影響のないところを工場適地として選定し、企業の積極的な誘致集約を図ります。



南砺インターチェンジ（仮称）からのアクセスが良い企業集積地
（整備イメージ）

④ 農村・自然系

・市街地の周辺には大規模な工場の立地が進んでいるところも見られますが、農業保全地域として良好な営農環境を保全するとともに、「散居景観保全事業」や諸制度の導入について検討し、散居景観の維持保全にも努めます。
・特産物の里芋や菊に代表される園芸の育成を促進し、地域コミュニティの醸成やまちづくりの活性化に寄与するように努めます。

2） 市街地整備

・これまで寺家新屋敷地区では土地区画整理事業が実施され、都市基盤が整備されてきましたが、今後、農村部での住宅需要を抑えるため、用途地域内に残る未利用地での面的整備を検討します。

3） 交通体系

① 道路

（主要幹線道路）

・市内の各地域を連絡する道路を主要幹線道路として位置づけ、周辺地域との連絡強化に努めます。また、市街地の西側に南砺インターチェンジ(仮称)を開設するとともに、福野市街地と連絡するアクセス道路についても主要幹線道路とし、円滑な交通の処理に努めます。
（国道471号，主要地方道砺波福光線，主要地方道金沢井波線，一般県道福野城端線，一般県道安居福野線，都市計画道路寺家高儀線）

（幹線道路）

・市街地の外周に環状線の機能を有する道路を配置し、円滑な交通の処理に努めます。
（都市計画道路二日町苗島線，都市計画道路百町二日町線）
・市街地の軸となる主要地方道砺波福光線を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。
・市街地と周辺の農村地域を連絡する道路及び農村地域において骨格となる道路を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（補助幹線道路）

・市街地に発生集中する交通を、都市軸や環状線として機能する幹線道路に誘導処理する道路として整備します。ただし、長期未着手道路のうち、施工費が嵩み費用対効果の低い道路は、計画の見直しを行います。
・農村地域に位置づけられた幹線道路を補完する道路として配置整備し、円滑な交通の処理に努めます。

（その他）

・市街地中心部の商業地や教育施設など主要な公共公益施設周辺で、自転車や歩行者の多い路線は、その通行に配慮した安全で快適な自転車・歩行者空間の整備充実に努めます。
・鉄道踏切のうち、交通量が多いにもかかわらず道路幅員が狭く危険性の高い箇所については、鉄道事業者と協議しながら踏切の改善を働きかけるほか、都市計画道路の整備により交通の迂回誘導に努めます。

② 公共交通

・誰もが安心して暮らせる交通環境をめざし、公共サービス施設やショッピングセンター、医療施設等を巡回するバス路線の充実を図ります。
・ＪＲ福野駅は、交通の結節点としてバスとの連携強化やパーク＆ライド用駐車場の整備充実に努めます。また、駅東側からの駅利用についても検討します。

4）　公園・緑地

・公園緑地は、既存の施設を活用しながら、住民ニーズにあった施設の充実、災害時の避難場所としての利用に適するよう整備に努めます。
・街路樹の整備を進める一方で、他の施設との調和のとれた適切な維持管理を行います。
・桜の名所や散居村が一望できる場所となっている安居寺公園は、総合型の公園として整備充実に努め、合わせて安居寺周辺の環境を保全します。

5）　その他の都市施設

① 情報基盤

・工場適地への企業誘致を促進するため、超高速ブロードバント網の整備充実を通信事業者に働きかけます。

② 自転車駐車場

・ＪＲ城端線の利用増進を図るため、ＪＲ福野駅前自転車駐車場の整備充実について検討します。

6）　都市景観

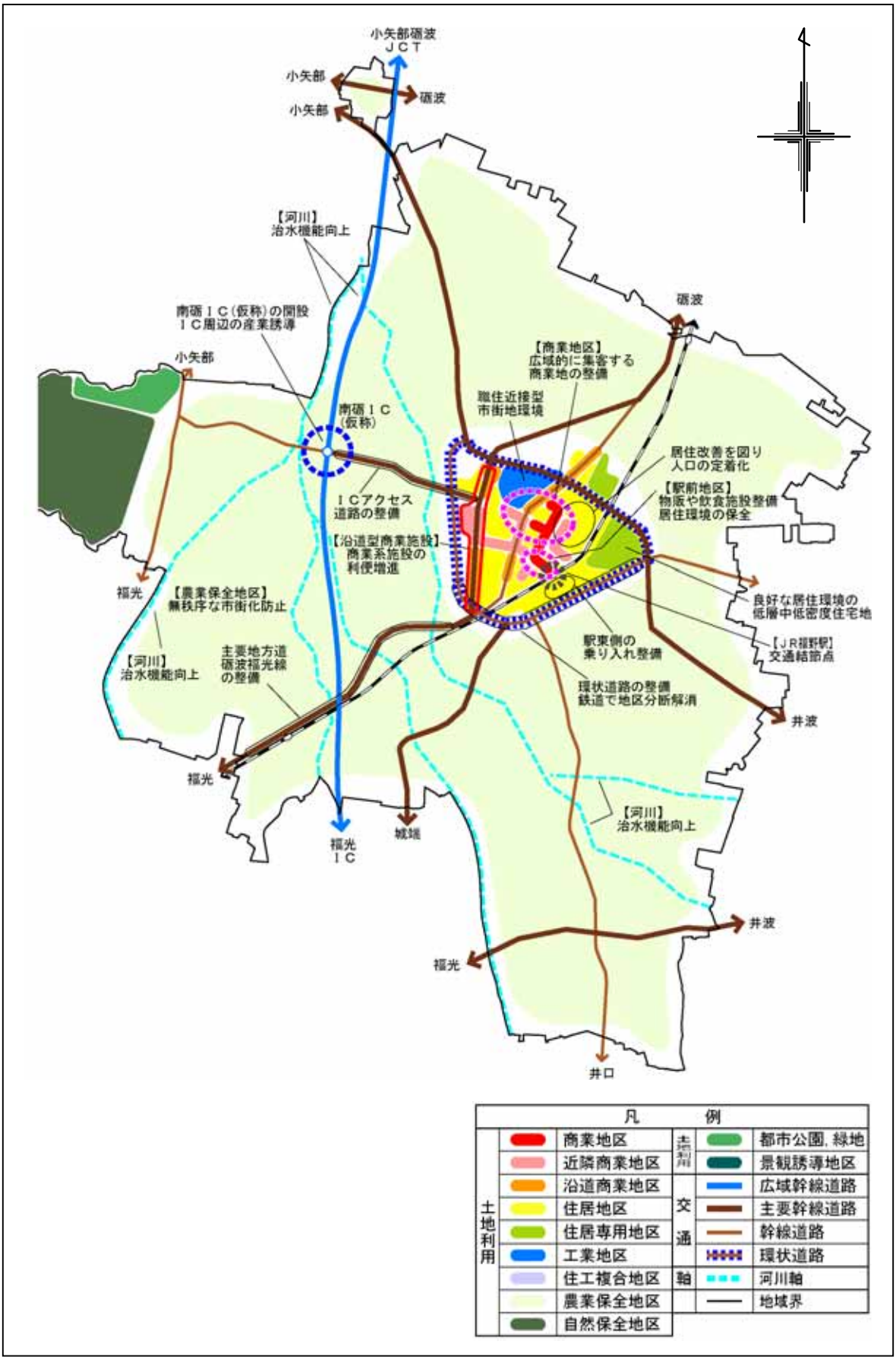
・ＪＲ福野駅前は、地域の玄関口としてふさわしい景観の向上に努めます。
・まちなかでの緑の整備を進めるなかで、都市施設と街路樹が一体となった都市景観の向上に努めます。

7）　都市環境

① 防災

・福野地域は、市域を流れる主要な河川が合流するところですが、近年の豪雨にも対処できるよう治水機能を持った河川断面を確保し、災害に強い安全で安心な環境の形成に努めます。
・市街地では、オープンスペースの確保などにより建物密集地の環境を改善し、火災などの災害に強い都市構造の形成に努めます。

図５－７　まちづくり方針図（福野地域）



５－５　福光地域

（１）　地域の現況

地域の特性

・金沢市に近い距離にあります

・市街地には版画家の棟方志功ゆかりの観光施設が立地しています

・用途地域内にはまだ農地がまとまって残っています

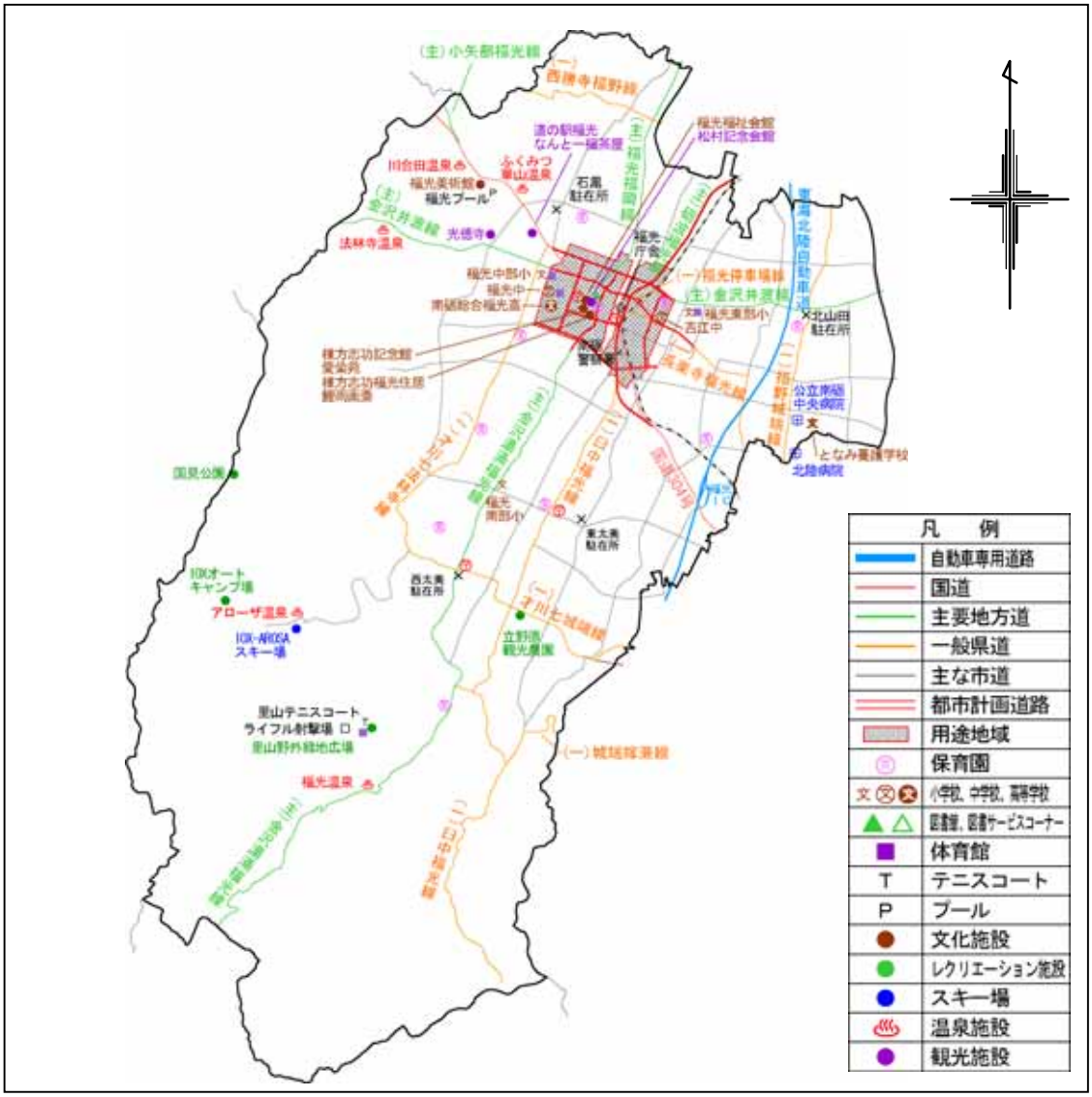
・山間地にはスキー場やキャンプ場などのレクリエーション施設が充実しています

・温泉施設が多くあります

表５－５　人口、世帯数等

			平成７年	平成12年	平成17年
都市計画区域	面積	ha	9,096		
	人口	人	20,444	19,661	19,276
	世帯数	世帯	5,547	5,419	5,623
	人口密度	人／ha	2.25	2.16	2.12
	一世帯当り人員	人／世帯	3.69	3.63	3.43
用途地域内	面積	ha	242		
	人口	人	6,975	6,583	6,219
	世帯数	世帯	2,184	2,105	2,117
	人口密度	人／ha	28.82	27.20	25.70
	一世帯当り人員	人／世帯	3.19	3.13	2.94
用途地域外	面積	ha	8,854		
	人口	人	13,469	13,078	13,057
	世帯数	世帯	3,363	3,314	3,506
	人口密度	人／ha	1.52	1.48	1.47
	一世帯当り人員	人／世帯	4.01	3.95	3.72

図５－８　道路及び主要施設



（2） 地域の問題点と課題

	都市の現状	ワークショップ結果		課　　題
土地利用	1・用途地域内において農地がまとまって残っている地区があります 2・ショッピングセンターには多くの買物客が訪れているものの、市街地中心部は、人通りが少なくなっています 3・市街地は、用途が混在する密集住宅地となっています 4・郊外に大規模な工場や工場団地が立地しています	**良い点** A・ショッピングセンターは市街地からも歩いていける B・賑やかな飲食店	**問題点** a・観光施設が離れすぎ一体性や回遊性がない b・観光客を商業地に誘導すべき c・観光客に紹介できる食事処が少ない d・商業地は歩く人が少ない e・空店舗が多くなっている	●市街地内での**良好な住宅地の整備**（1，3） ●長期的展望にたった**土地利用計画の見直し**（1） ●**回遊性をもった魅力ある商業地の形成**（2，A，B，a，d，e） ●市街地周辺の農村部における**良好な農業地の保全**（4）
都市施設	1・長期未着工の都市計画道路があります 2・鉄道を横断する立体交差は２箇所で、地域が分断されています 3・市街地内において、歩道のないところがあります 4・市街地内はまとまった駐車場が少なく商店街は路上駐車が多くなっています 5・福光公園や小矢部川公園などが整備されていますが市街地内には公園緑地が少ない状況です 6・城端地域との境に福光ＩＣが配置整備されています	**良い点** A・音楽施設が充実 B・街なかに公園文化施設がある C・教育施設が集中している	**問題点** a・歩道に段差があり歩きにくい、狭い b・棟方の鯉雨画斎への道が分かりにくい c・福光公園は遊具が少ない d・児童館に大変入りにくい e・小矢部川沿いの道路が狭い f・踏切と304号の交差点が近く危ない g・鉄道側に歩道がない h・街なかへ誘導する道路が必要 i・福祉会館の駐車場が狭い j・中心部に文化施設やスポーツ施設がない	●長期未着工となっている**都市計画道路の整備**（1，2） ●子供やお年寄りにも**歩きやすい安全な歩道の整備**（3，a） ●市街地中心部における**駐車場の確保**（4，i） ●公園や緑地での**維持管理や施設の充実**（5，B，c） ●**福光ＩＣ周辺での新規産業の企業誘致**（6）
都市景観	1．街なかに石垣や格子の風情を感じる街並みがあります 2・小矢部川は市街地の中を流れうるおいのある景観として親しまれています 3・散居村景観が広がる中、工場団地が立地しています 4・地域には医王山を始めとする山間地があり、住民に親しまれています	**良い点** A・石垣 B・格子の建物等を残して欲しい C・小矢部川がきれい　特に春の桜並木 D・道が曲がっている所（人力車の客から良い風景と言われる） E・新町や味噌屋街等古いまちなみが残る		●市街地内の歴史を感じる**建物や街並みの景観の保全**（1，A，B，D，E） ●市街地を流れる小矢部川の**景観として保全及び活用**（2，C） ●農村部の**散居村風景の維持・保全**（3） ●**山間地の良好な自然景観の保全**（4）
都市環境	1・市街地内は木造住宅が密集し、災害の危険性が高い地区があります 2・冬期間、積雪により交通の支障がきたすおそれのある地区がみられます 3・小矢部川は住民にとって良好な環境要素となっています 4・山間地には豊かな自然環境が残っています	**良い点** A・市街地を流れる川　他にはなく珍しい	**問題点** a・住宅密集、高齢化　災害の危険性高い b・道幅が狭く危険 c・交差点で見通し悪い箇所がある d・消雪施設がなく積雪時不便 e・交差点が複雑で停止する位置が分かりにくい	●木造建物が密集する地区での災害に強い**居住環境の改善**（1，2，a，b，d） ●小矢部川を**うるおいのある環境として保全及び活用**（3，A） ●動植物の生息の場や水源かん養の場としての**山間地自然環境の保全**（4） ●**交通安全の啓発や交通安全施設の整備**（c，e）
地域個性	1・市街地には棟方志功ゆかりの施設など観光施設が立地しています 2・山間地にはスキー場やキャンプ場、温泉施設といったレクリエーション施設が整備されています 3．レクリエーション施設などは、金沢市からの利用客も多くなっています 4・中国紹興市との交流が活発に行われています			●地域に残る**文化資産の保全活用**（1，4） ●自然環境を利用した**レクリエーション施設の整備充実**（2，3）

※数字やアルファベットは各項目と関連する

（３） 地域の将来像

福光地域は、医王山の裾野にあって市街地に小矢部川が流れる豊かな自然環境に恵まれています。

また、棟方志功ゆかりの地、中国との交流という文化面での特性が市民の誇りとなっています。

こうしたなかで、賑わい空間を継承し、うるおいのあるまちづくりを進めるため目標を次のように設定します。

まちづくりの目標

自然と文化を育む交流のまち　福光

～棟方志功の版画、中国交流の美術品等の「文化」と、干し柿や米菓等の自然の食材、山間地のレクリエーション施設といった「自然」を育み、交流するまちとして～

まちづくりの主要方針

≪交流による活性化≫

・棟方志功ゆかりの歴史的な文化遺産が多く残ることから、個々の観光施設の連携を高めて回遊性を持たせ、交流人口の増加を図ります。

・隣接する金沢市と行政や経済面での交流に加え、スポーツや教育、文化、観光においても交流を深め活性化を図ります。

・豊かな山間地の自然による心身のリフレッシュの場として、健康増進を図るべくスポーツレクリエーション施設の整備充実を図ります。

≪商業地の活性化≫

・集客力の高い観光施設や沿道型商業施設との連携等を進める一方で、ミニギャラリーの開設といった空き店舗の有効利用など商業機能の充実を図り、市街地中心部の活性化を図ります。

≪快適な居住環境の整備≫

・金沢市へのアクセスの向上を図るとともに、地域の魅力を高め、ゆとりある環境を活かし定住促進を図ります。

・長期的展望に立った居住地の計画的な整備に努める一方、需要見通しの中で用途地域の見直しも検討します。

≪地域内外との連携を図る道路整備≫

・隣接する金沢市や市内各地域との連携強化を図るべく道路整備を推進します。

・鉄道や河川によって分断されている地区の一体化をめざし道路整備を推進します。

≪安心して暮らせる都市空間の整備≫

・通学や買い物、ウォーキングといった日常生活に、子供からお年寄りまでが安心して利用できる歩行者空間の整備充実に努めます。

・建物が密集する市街地にあって基盤整備を進め、安心して暮らせる生活環境の確保に努めます。

（４）　分野別の方針

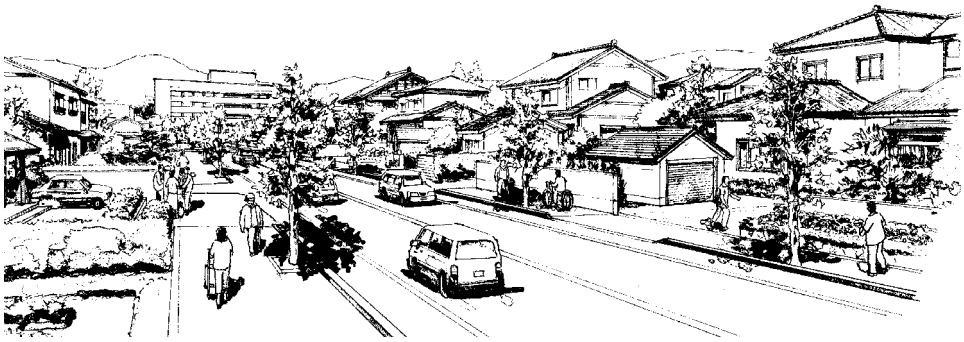
１）　土地利用

① 商業系

・ＪＲ福光駅前周辺は、住宅との共存を図るとともに、物販や飲食等の商業施設の立地を誘導していく地区として位置づけます。
・市街地中心部の既存商店街の地区は、店舗併用住宅が多いことから、居住環境にも配慮しながら近隣商業地区として位置づけます。ここでは、空き店舗を利用して開設が予定されている図書館を活用しながら、最寄り品を扱う商業施設の集積と生活利便サービス施設の立地誘導に努め、賑わい空間の創出を図ります。
・観音町地区は、古くから飲食街として賑わってきた地区であり、将来においても料理店などの飲食店が立地する商業地区として位置づけます。
・都市計画道路吉江鴻巣線沿いは沿道商業地区として位置づけ、沿道型の商業施設の立地誘導に努めます。

② 住居系

・市街地中心部の住宅が密集する地区は、住宅更新等の際にオープンスペースの確保に努め、良好な中低層中密度住宅地として環境の改善を図ります。
・既成市街地の外側に隣接する地区は、住居専用地区として位置づけられていますが、未利用地が多く市街化が遅れています。今後はコンパクトな市街化をめざす中で、この既成市街地周辺での利便性の高い位置条件を活かし、住宅需要を満たす低層中低密度住宅地として利用を促進します。



既成市街地周辺で整備された低層住居専用地区（整備イメージ）

③ 工業系

・新規工場進出にあたっては、農地におけるスプロール的な工場立地を防ぎ、工場団地などの工場適地への誘導に努めます。
・福光インターチェンジ周辺で交通の利便性の高い地区に、産業の誘導を図ります。

④ 農村・自然系

・市街地の周辺に広がる農地は農業保全地域とし、住宅や事務所・工場の立地による市街化を防ぎ、良好な営農環境を保全するとともに、「散居景観保全事業」や諸制度の導入について検討し、散居景観の維持保全にも努めます。
・医王山の自然環境を活用したスポーツレクリエーション施設は、県内外から訪れる多くの利用客のニーズに応じた施設として整備充実に努めます。

２）　市街地整備

・　未利用地が多く、今後市街化を積極的に進めていく地区は、面的整備の導入検討または地区計画等による秩序ある市街化の誘導を図り、住環境良好な市街地整備に努めます。

３）　交通体系

①　道路

（主要幹線道路）

・市内の各地域及び金沢市と連絡する道路を主要幹線道路として位置づけ、周辺地域との連絡強化や福光インターチェンジへのアクセス強化に努めます。また、金沢福光連絡道についても整備構想を具体化し、早期着工をめざします。
（国道304号，主要地方道砺波福光線，主要地方道金沢井波線，一般県道福野城端線）

（幹線道路）

・市街地の外周に環状線の機能を有する道路を配置し、円滑な交通の処理に努めます。
（都市計画道路吉江鴻巣線，都市計画道路小林栄町線，都市計画道路西町栄町線，市道高堀太美山線）
・市街地と周辺の農村地域を連絡する道路及び農村地域では、骨格となる道路を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（補助幹線道路）

・市街地に発生集中する交通を、国道304号や環状線として機能する幹線道路に誘導処理する道路として整備します。ただし、長期未着手道路のうち、施工費が嵩み費用対効果の低い道路は、計画の見直しを行います。
・農村地域に位置づけられた幹線道路を補完する道路として配置整備し、円滑な交通の処理に努めます

（その他）

・市街地中心部の商業地や教育施設など主要な公共公益施設周辺で、自転車や歩行者の多い路線は、その通行に配慮した安全で快適な自転車・歩行者空間の整備充実に努めます。
・鉄道踏切のうち、交通量が多いにもかかわらず道路幅員が狭く危険性の高い箇所については、鉄道事業者と協議しながら踏切の改善を働きかけるほか、都市計画道路の整備により交通の迂回誘導に努めます。

②　公共交通

・ＪＲ福光駅は交通結節点として、バスとの連携強化やパーク＆ライドなどの乗継機能を強化し公共交通の利用増進に努めます。

４）　公園・緑地

・既存の都市公園は、利用状況や設置位置等を考慮し、施設のリニューアル化に努めるとともに、緑地や遊具などの維持管理に努めます。
・居住地として市街化を進めていく地区にあっては、公園緑地の整備もあわせて進め、身近に緑が感じられるような都市空間の形成に努めます。

5）　その他の都市施設

① 下水道

・市街地では、浸水対策に資する都市下水路や雨水排水路の整備を進めるなど、安全で安心なまちづくりを推進します。

② 上水道

・湧水を水源としている地区は、浄水受水区域として整備します。

③ 河川

・地域中央を流れる一級河川小矢部川をはじめとする諸河川は、近年の豪雨に対処できるよう治水対策を行う他、都市の身近なうるおいある環境施設として整備に努めます。

④ 自転車駐車場

・ＪＲ城端線の利用増進を図るため、ＪＲ福光駅前自転車駐車場の整備充実について検討します。

6）　都市景観

・医王山の山並み景観は住民が愛着を持つ原風景であり、市街地から見える借景として保全するとともに、居住地に近い里山では新緑や紅葉が楽しめる広葉樹を増やすよう努めます。
・市街地を流れる一級河川小矢部川の景観は、住民にとってうるおいを感じる貴重な空間となっています。将来においても、水と緑の景観軸として保全整備に努めます。

7）　都市環境

① 防災

・地域を流れる大小の河川、また山間地や丘陵地の急峻な地形は、集中豪雨などによる自然災害の危険性が高いことから、地域防災計画に基づく災害に強い安全で安心なまちづくりの推進に努めます。

② 医療施設

・福光地域の東に位置する公立南砺中央病院は、井波地域の南砺市民病院と並んで南砺市の医療拠点と位置づけられています。特に本施設は、福光インターチェンジに近接し、広い範囲の医療サービスが期待されていることから、道路整備などアクセス性の向上を図るとともに医療施設の充実に努めます。

③ 観光資源

・全国的に有名な福光ゆかりの棟方志功に関連する観光資源の掘り起こしを行い、周辺の自然・観光レクリエーション施設とも連携を図りながら、観光客の誘致に努めます。

④ 金沢市との交流促進

・福光地域は、隣接する金沢市と歴史的にも結びつきが強く、現在も行政や経済面で密接な交流があります。こうした繋がりをスポーツや教育、文化、観光といった市民レベルに広げ、交流人口の増加を図り地域の活性化に努めます。

⑤ ゆとりある地域づくり

・「干柿」「米菓」など自然の食材を育む農村地域や、医王山をはじめ周囲に連なる山々の自然に恵まれた環境特性を活かし、ゆとりある地域づくりを進めるため、都市生活者との交流を促進します。

図５－９　まちづくり方針図（福光地域）

５－６　井口地域

（１）　地域の現況

地域の特性

・平野部一帯は良好な農地と散居村が広がっています

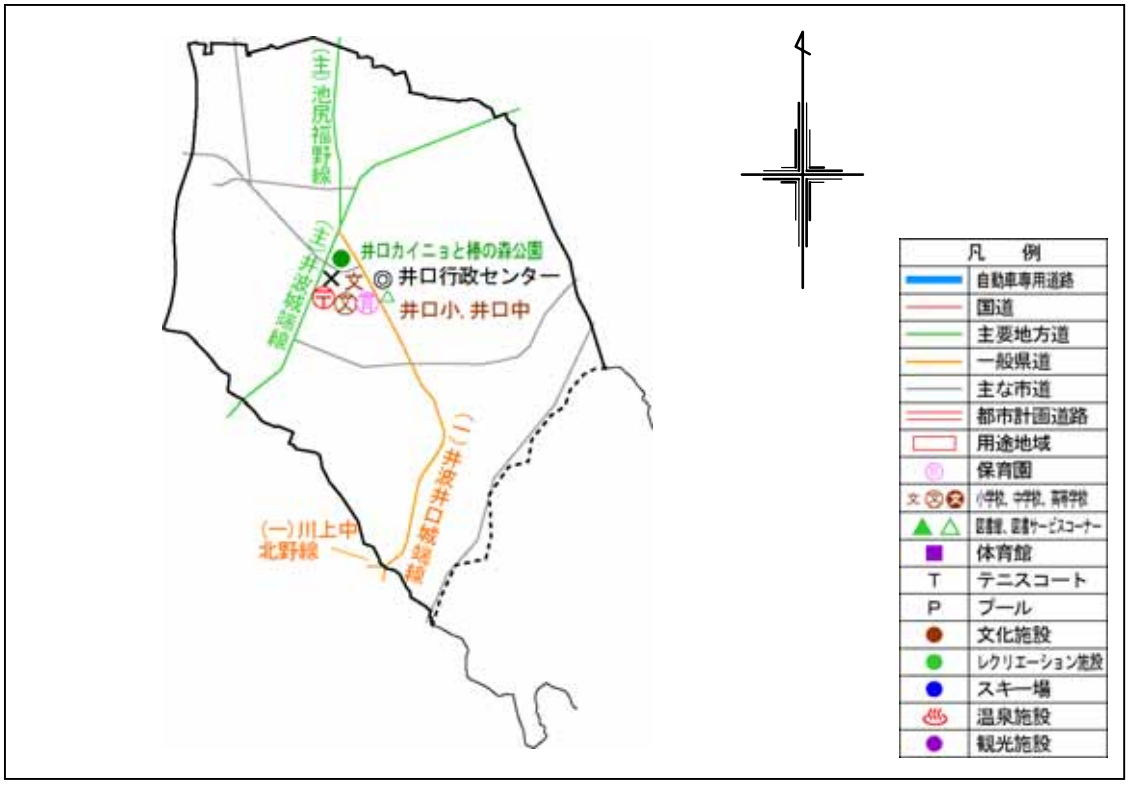
・周辺地域での都市施設の利用が多くなっています

・井口カイニョと椿の森公園（椿館等）など“椿”に関する施設があります

表５－６　人口、世帯数等

			平成７年	平成12年	平成17年
井口地域平野部	面積	ha	418		
	人口	人	1,342	1,271	1,313
	世帯数	世帯	305	307	319
	人口密度	人／ha	3.21	3.04	3.14
	一世帯当り人員	人／世帯	4.40	4.14	4.12

図５－10　道路及び主要施設



（２） 地域の問題点と課題

・生活様式の変化や都市化の進展などにより、地域の一体感が薄れつつあることから、**地域コミュニティの強化**が求められています

・地域の平野部は散居村の形態となっているなかで、一部住宅団地などの需要もあることから、**農業環境と居住環境の調和**が求められています

（３） 地域の将来像

井口地域は、豊かな自然に恵まれた農村部としての暮らしを維持し、その中で豊かなコミュニティの形成を図ってきた地区であり、将来においてもこれを維持した地域づくりを目指します。

まちづくりの目標

田園と定住環境が調和した地域　井口

～　平野部に広がる田園風景を保全しながら、住み慣れた地域としての居住環境を形成し、豊かなコミュニティが継承される地域として　～

まちづくりの主要方針

≪地域の特産を活かしたまちづくり≫

・井口は「つばきの里」として、地域づくりを進めてきていることから、その誇れる資源を活用して、交流人口の増大と地域の活性化を図ります。

≪農業環境と調和した定住環境の整備≫

・農村の原風景が広がる地域の景観を保全しながら、道路や下水道等の都市基盤整備の充実により、快適な定住環境の形成を図ります。

・井口カイニョと椿の森公園「いのくち椿館」を拠点とし、文化の発展やコミュニティの強化を進め、地域活力の醸成を図ります。

（４）　分野別の方針

１）　土地利用

①　農村・自然系

・隣接する周辺地域と一体的な土地利用をめざし、適切な土地の保全と利用を図るため、平野部を都市計画区域に編入します。
・地域に広がる農地は農業保全地域とし、無秩序な農地転用による市街化を防ぎ、良好な営農環境を保全します。また「散居景観保全事業」の促進や諸制度の導入について検討し、散居景観の維持保全にも努めます。
・地域ぐるみで進められている椿に関連するまちづくりは、交流の活発化や地域コミュニティ醸成のために継承及び活用していきます。

②　集落地等

・集落や住宅団地などの既存の居住地は、周辺の農業地との調和を図りながら、良好な居住環境の維持・保全に努めます。

２）　交通体系

①　道路

（主要幹線道路）

・主要地方道井波城端線を主要幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（幹線道路）

・農村地域において骨格となる道路を幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

（補助幹線道路）

・周辺地域との連絡を補完する道路や農村地域集落間の連絡道路は、幹線道路を補完する補助幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

②　公共交通

・市内の主要な施設を連絡するバス路線など、通勤や通学に利用できる利便性の高い公共交通の充実に努め、車を運転しなくても快適に暮らせる環境の整備に努めます。

３）　都市景観

・農村景観や山並みなど住民に親しまれている景観は、地域住民の原風景として保全及び継承に努めます。

４）　都市環境

①　防災

・地域を流れる河川は、急峻な山間地から流れる地形条件のため、集中豪雨などによる自然災害の危険性が高いことから、地域防災計画に基づく災害に強い安全で安心なまちづくりを推進します。

図５－11　まちづくり方針図（井口地域）

５－７　山間地域

（１）　地域の現況

地域の特性

（五箇山）

・世界遺産合掌造り集落や五箇山民謡など、地域独自の文化が継承されています

・各集落は平野部市街地と国道や県道などにより連絡しています

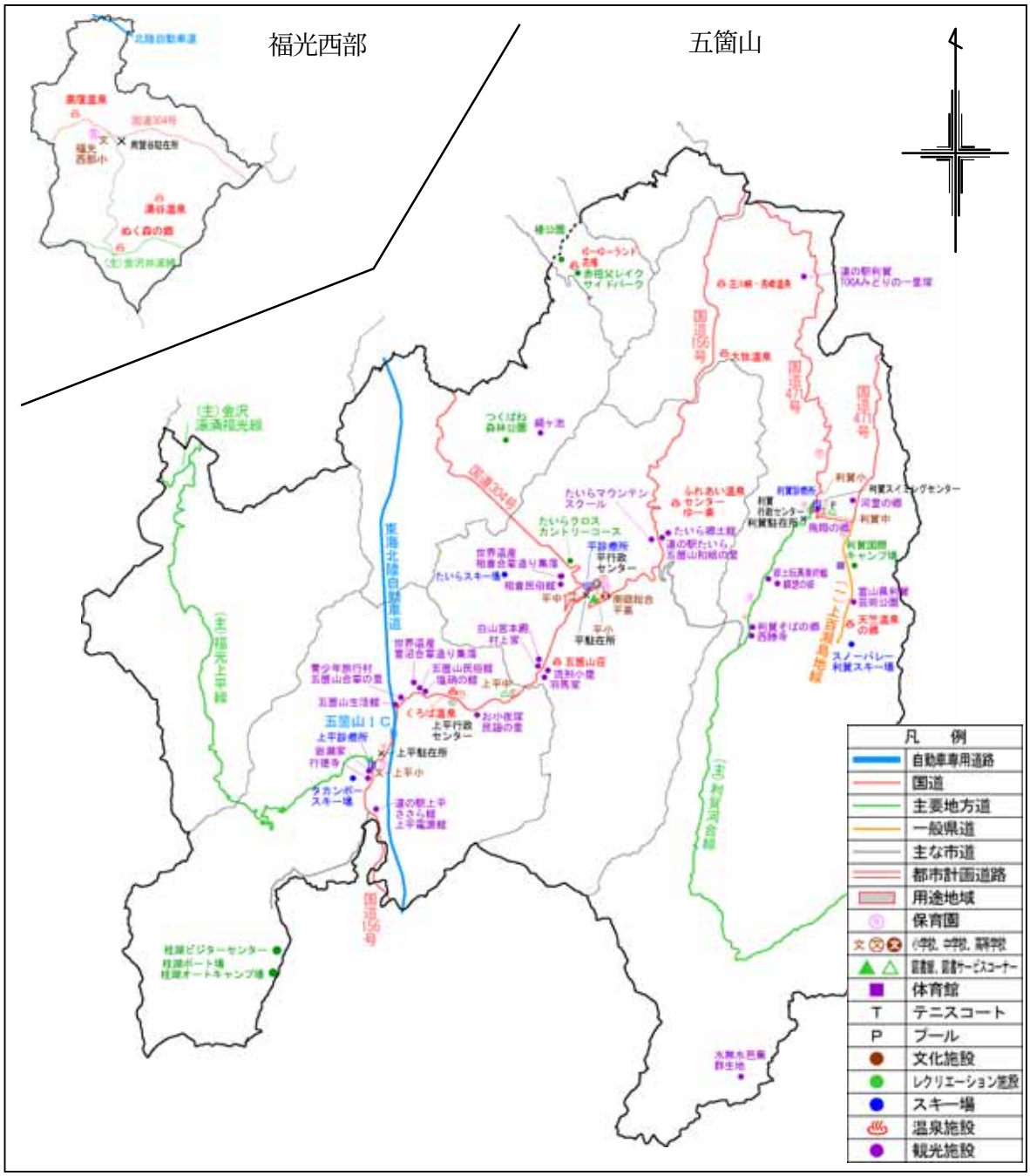
（福光西部）

・金沢市と福光地域の間に位置し、地域内には金沢市と本市を連絡する主要な道路が通っています

表５－７　人口、世帯数等

			平成7年	平成12年	平成17年
山間地域	面積	ha	50,396		
	人口	人	5,081	4,659	3,939
	世帯数	世帯	1,666	1,593	1,265
	人口密度	人／ha	0.10	0.09	0.08
	一世帯当り人員	人／世帯	3.05	2.92	3.11

図５－12　道路及び主要施設



（２） 地域の将来像

（五箇山）

五箇山地域は、世界遺産をはじめ伝統的な歴史文化を今に伝え、現在の暮らしに活かすことにより、本市の歴史文化拠点として城端、井波地域とともに観光ネットワークを形成し、豊かな自然環境の保全を図るなかで将来の地域づくりをめざします。

地域づくりの主要方針
≪地域資源を活かした魅力の発信と安定した産業の創出≫ ・世界遺産合掌造り集落を始め、五箇山民謡、塩硝などの風土文化を活かして、地域内外に魅力を発信し、地域の個性を活かした体験型・滞在型の観光客誘致を推進します。 ・公共団体や建設業を主体とした産業構造となっているなかで、観光など安定した活力となる産業の創出を図ります。 **≪時代の潮流を考慮した地域づくり≫** ・過疎化や少子高齢化が周辺地域よりも早く進行しているなかで、生活環境や地域産業を維持できる体制づくりに努めます。 **≪暮らしやすい生活基盤の整備≫** ・急峻な山間地に囲まれた地形条件であることから、各地域を連絡する災害に強い道路ネットワークづくりを進めます。 ・全国有数の豪雪地域にあって冬期間でも安全で快適な暮らしができる生活環境づくりに努めます。 **≪自然あふれる環境や地域固有景観の保全≫** ・緑あふれる山間地や清らかな河川は、うるおいある環境を形成する要素であり将来においても保全に努めます。 ・世界遺産合掌造り集落など世界に誇れる地域固有の景観について、関連する事業と連携しながらその保全を図るため規制や誘導を検討します。

（福光西部）

福光西部は、福光地域と金沢市の間にあって、自然環境に恵まれた山村の暮らしが維持されてきました。将来においてもこの地域の環境を維持していきます。

地域づくりの主要方針
≪地域内外との連携≫ ・金沢市へ連絡する交通の安全確保に努めます。 **≪地域コミュニティの維持≫** ・山村の良好な暮らしの保全と、地域コミュニティの維持に努めます。 **≪緑豊かな自然環境の保全≫** ・地域の緑豊かな自然環境の維持保全に努めます。

（３） 分野別の方針

１） 土地利用

① 農村・自然系

・緑豊かな山間地の自然や河川・湖沼等は、うるおいある環境として継承されるよう保全に努めます。
・かつて農地として利用されていたところや、林業によって管理されていた森林地域は、後継者の育成やグリーンツーリズムなど都市と農村の交流地域として再利用も検討します。

② 集落地等

・五箇山や福光西部の山間地には多くの集落が散在していますが、ほとんどの地区で少子高齢化が進行しています。今後とも居住環境の改善を進め人口の定着化を図ります。
・世界遺産合掌造り集落の菅沼地区や相倉地区には、古くからの伝統文化が残されており、その貴重な地域文化を継承するとともにコミュニティの維持に努めます。

２） 交通体系

① 道路

（主要幹線道路）

・地域の骨格となる道路を主要幹線道路として位置づけ整備します。特に、山間地域では最も重要なライフラインであることから、災害時に孤立集落が発生しないよう道路の整備改善や、高速道路の開放も含めた道路ネットワークづくりを推進します。
（国道156号，国道304号，国道471号，主要地方道金沢井波線）
・利賀ダムの建設と併せて整備されている国道471号利賀バイパスの早期整備に努めるとともに、八乙女連絡道について整備構想を具体化し、早期着工をめざします。

（幹線道路）

・山間地にあって主要幹線道路を補完する道路を幹線道路として位置づけ、主要な集落間を複数の路線で連絡するように努めます。

（補助幹線道路）

・集落間を結ぶ連絡道路は、幹線道路を補完する補助幹線道路として位置づけ、円滑な交通の処理に努めます。

② 公共交通

・各集落間の距離が遠く高齢者が多いという地域特性を考慮し、各集落を連絡するバス路線の確保に努めます。

３）　その他施設

① 河川

・河川の自然環境の保全に努めるとともに、河川の治水対策の推進に努めます。

② 駐車場

・東海北陸自動車道の全線開通により多くの観光客が五箇山地域を訪れています。この機に世界遺産合掌造り集落の菅沼地区、相倉地区をはじめ、上梨地区など集客力の高い地区で駐車場の整備充実を図り、地域産業の振興に寄与します。

４）　都市景観

・河川の渓谷美や緑豊かな山並みなど、地域の財産として良好な自然景観の保全に努めます。
・世界遺産に指定されている菅沼合掌造り集落と相倉合掌造り集落の景観は、地域固有の景観として保全に努めるとともに、周辺地域も含めて景観の阻害となる建築物や工作物の規制に努めます。

５）　都市環境

① 防災

・豪雨による土砂災害や豪雪による雪害など頻発する災害の発生を鑑み、複数の交通網の整備と生活環境の向上に努めるとともに、災害が発生した場合にも迅速な対応が可能なシステムづくりに取り組み、安全で安心して暮らせる環境の整備に努めます。

② 観光資源

・城端、井波地域の観光施設、さらには金沢市や白川村といった観光地との連携により、観光客の誘導を図るとともに、自然環境や温泉等のレクリエーション資源に恵まれていることから、地域の個性を活かした体験型・滞在型観光をめざした施設の整備を充実し、交流人口の増加に努めます。

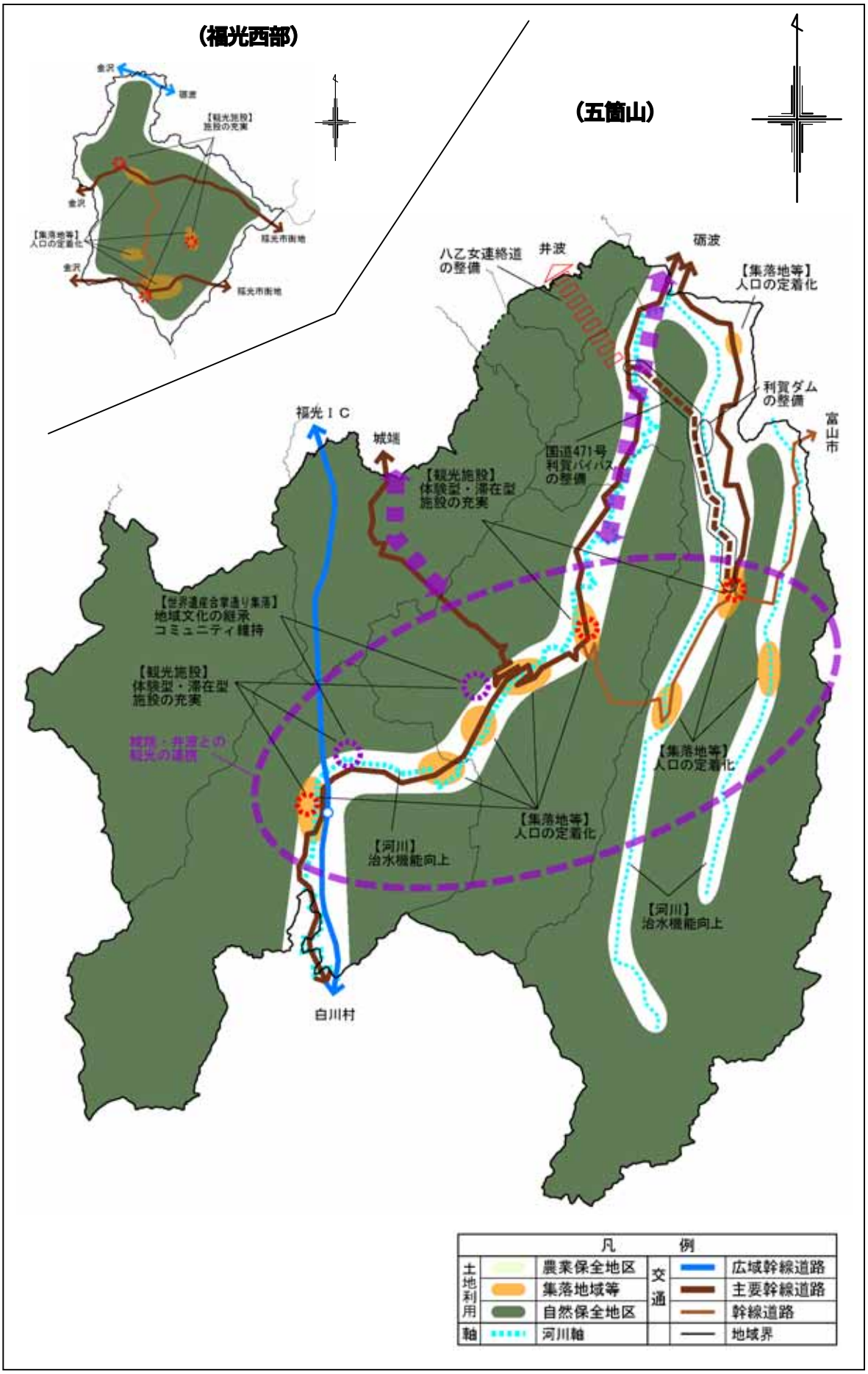



図５－13　まちづくり方針図（山間地域）